

特定非営利活動法人 日本システム監査人協会報

特集：支部活動

日本システム監査人協会の第9期通常総会は、平成22年2月19日(金)、310名の会員が参加して東京港区の機械振興会館会議室において開催されました。総会に続き、各界で話題となっている「クラウドとセキュリティ」の考え方について特別講演会が開催されました。講演の要旨は後述します。

■第9期通常総会の概要

通常総会は、斎藤理事の総会司会で開始され、出席者総数310名、うち委任状227名により成立し、沼野副会長を議長に選任して報告および審議が行われました。

(総会出席資格者は、973名で、出席率は31.8%)

総会議事は、平成21年度事業報告、同会計報告、平成22年度事業計画、同年度予算について、鈴木会長、会計担当榎本理事から報告、および説明が行われました。ついで、北海道支部、東北支部、北信越支部、中部支部、近畿支部、中四国支部、九州支部の各支部長および代理者から、各支部の活動実績と次年度の計画について補足説明がなされました。今年は会員の増加数と退会者数が拮抗するなかで、予定されたシステム監査普及事業の多くが、当初予定された参加者を確保できずに規模を縮小して実施されたことが報告されました。新年度の活動計画および予算のなかでも、長引く景気低迷の中で、いかに効率よくシステム監査の成果を事業経営の改善に結び付けていくことを実証できるかが大きな

役割となります。会員の世代交代や入れ替わりも、システム監査の普及を加速させるために必要です。情報セキュリティ監査や内部統制監査というタイトルが人気を博していますがその土台としてのシステム監査を、どのように定着させていくか、ここ数年、精一杯に踏ん張っていききたいという思いを強くした総会の内容でした。参加会員からの質問に対する応答の後、議案は採決され、議案の通り可決されました。

今回は、理事、監事の全員が改選される時期であり、出席者の拍手により立候補者全員が役員に就任することが承認されました。なお、会長、副会長の選任は、後日、理事の互選により決定されます。

総会で報告された平成21年度事業報告、同会計報告、平成22年度事業計画、同年度予算は、総会資料をご確認ください。総会に引き続き、特別講演会が開催され、今回は「クラウドコンピューティングのセキュリティ」について、東京電機大学未来科学部教授、工学博士の佐々木良一氏にご講演いただきました。

目次 (報告者の敬称略)

1. 第9回総会と特別講演の報告	1
・ 総会、特別講演の要旨	2
・ 総会資料	5
2. (特集) 支部活動	
・ 近 畿 2009年監査サービス報告 近畿支部	48
ISACA 大阪支部と SAAJ 近畿支部合同講演会実施報告	49
近畿支部第117回報告	49
・ 北信越 活動報告	51
・ 中 部 中部091128-29 合宿報告	53
3. 理事会議事録	
・ 0912月理事会議事録	55
・ 1001月理事会議事録	58
・ 1002月理事会議事録	61
・ 1003月理事会議事録	64
・ 1004月理事会議事録	68
4. 月例研究会	71
・ 第152回月例研究会「IT分野の会計検査」	
5. 事務局より	75
・ Web会員システムの紹介	
・ 住所、所属の変更	
・ 電子化した会報の送付	
6. 編集後記	76



(ご講演中の佐々木教授)

【講師略歴】昭和46年3月東京大学卒業。同年4月日立製作所入社。システム開発研究所にてシステム高信頼化技術、セキュリティ技術、ネットワーク管理システム等の研究開発に従事。同研究所第4部長、セキュリティシステム研究センタ長、主管研究長等を経て平成13年4月より東京電機大学工学部教授、平成19年4月より未来科学部教授。工学博士（東京大学）。現在は、情報処理学会フェロー、情報処理学会コンピュータセキュリティ研究会顧問、日本セキュリティ・マネジメント学会会長、情報ネットワーク法学会理事長、日本学術会議連携会員、日本ネットワークセキュリティ協会会長、IFIPTC11日本特別代表などを務めておられる。

■特別講演会の概要

演 題：「クラウドコンピューティングのセキュリティ」

講演者：東京電機大学未来科学部教授

情報セキュリティ研究室

工学博士 佐々木良一 氏

講演目次と要旨：

目 次

1. クラウドコンピューティングの概要
2. セキュリティとITリスク
3. クラウドコンピューティングとITリスク対策
 - 3.1 故意の不正に対するセキュリティ対策
 - 3.2 バグや故障・災害への対策
 - 3.3 サービス提供者へのトラスト確保対策
4. 必要となる技術
5. 今後の展望

要 旨

1. クラウドの定義と要素

クラウドコンピューティング（Cloud Computing、単にクラウドともいう。クラウドは雲のこと）は、米国グーグル社のCEO エリック・シュミット（Eric Schmidt）氏が2006年に用いたのが始まりだった。最近ではいろいろな立場の方がいろいろな使い方をされているので、主要な定義を紹介すると、

IBMの定義：

「ローカル・マシンやリモート・サーバ・ファームではなく、グローバルにアクセス可能な分散されたリソースの集合体を利用するコンピューティング」

米国商務省の国立標準技術局（NIST：National Institute of Standards and Technology）の「クラウドコンピューティングの定義（The NIST Definition of Cloud Computing）」：

「クラウドコンピューティングは、最小の経営

5つの重要な特徴

重要な特徴(Essential Characteristics)	解 説
オンデマンド・セルフサービス On-demand self-service	ユーザーが、プロバイダーの提供するコンピューティング機能（サーバーの使用時間やネットワークストレージなど）を人手を介することなく自動的に割り当てられ、提供されること。
広範なネットワークによる接続 Broad network access	ネットワーク上で利用される標準的なメカニズムを介して、異なるデバイス（携帯電話、ノートパソコン、PDA等）で利用できること。
システム資源のプール Resource pooling	プールされているプロバイダーの物理的なコンピューティング資源を仮想し、ユーザーの要求に応じて、ユーザーごとに独立したシステム単位（マルチテナント）として動的に割り当て、再割り当てできること。コンピューティング資源がどこに存在しているかは、ユーザーからは、分らない。ここでいう資源とは、ストレージ、処理能力、メモリ容量、ネットワーク帯域幅、仮想マシンを言う。必要となる資源の増減が、システムによって迅速かつ弾力的に行われる機能を有していること。そして、この対応が自動的に行われること。
迅速な応応性 Rapid elasticity	各種サービス機能（例えば、ストレージ、計算処理、帯域幅など）をその使用量に応じて課金する仕組みを持つこと。
従量課金サービス Measured Service	

http://japan.zdnet.com/blog/netcommerce/2009/10/30/entry_27035197?ref=rss

図1

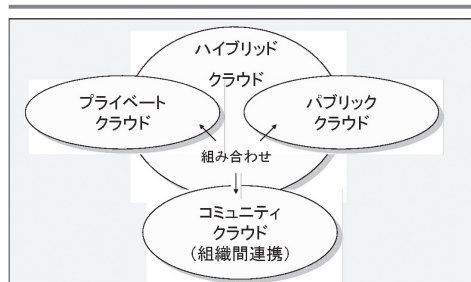
クラウドの3つのサービスモデル



米国NISTの定義より

図2

クラウドの4つの実現モデル



米国NISTの定義より

図3

努力あるいはサービスプロバイダー間のやり取りで、迅速に準備し提供されうる可変な計算資源(たとえばネットワーク、サーバ、ストレージ、アプリケーション、サービスなど)が共有されたプールへの便利なオンデマンドネットワークアクセスを可能にするためのモデルである。」

そして、このクラウドモデルは可用性を推進するものであり、オンデマンド・セルフサービスなど5つの重要な特徴(図1)、SaaS、PaaS、IaaSに分類する3つのサービスモデル(図2)、そして4つの実現モデル(図3)によって構成される。

2.クラウドの実現は同床異夢

- (1)いろいろなことが安価に実現できると期待するユーザの立場としてのクラウド
- (2)国際的囲い込み戦略としてのクラウド(Googleなど):日本のIT企業から見ると、計算機=>ネットワーク=>ソフト=>SIに続く第4のダウンサイジング
- (3)「集中=>分散=>集中」論者の夢としてのクラウド(旧メインフレームなど日本のIT業者):自分たちに経験があり、かつ技術力が発揮できる =>プライベートクラウド

佐々木教授は、これらのダウンサイジングの流れから、日本のIT企業はそれぞれの変革が必要であると力説される。

- (1)システムインテグレータ:マーケットを喪失している
=>魅力あるプライベートクラウドの提案と安価な提供など
- (2)ソフトウェアベンダー:
ライセンス体系の整備、クラウドを利用した新しいサービスの提供
- (3)サーバーメーカー:
顧客の限定化対応(クラウドに最適化)、価格低下対応(省電力・高信頼化・高セキュリティ化?)など
- (4)ネットワーク機器ベンダー:
クラウド向け製品の提供、価格低下対応(高信頼化・高セキュリティ化?)など
- (5)レンタルサーバ事業者・ホスティング事業者:
マーケットの喪失、価格低下対策(高信用化?)など

3.クラウドに求められるセキュリティ

クラウド実現のための基本技術には、セキュリティ確保が不可欠である。具体的には、

- ①外部や内部からの攻撃に対するセキュリティ対策
 - (a)クラウドへの攻撃
 - (b)利用者の装置への攻撃
- ②バグや故障・災害などへの対策
 - (a)システムの停止
 - (b)データの喪失
 - (c)誤処理
- ③サービス提供者へのトラストの確保対策
 - (a)将来にわたりサービスしてもらえるか
 - (b)データの目的外使用や不正処理をしていないか
 - (c)政府などによる検閲のある国で処理していないか
 - (d)障害や不正があったとき調査などに協力してもらえるか

このため、Trustという考え方が定着していくことが求められる。

サービス提供者が「将来にわたってサービスをする」というトラストを確保する方法として、教育や契約(①サービスレベルアグリーメント、②ガイドラインなど)により実現し、確認する。

4.セキュリティからトラストへ

佐々木教授は総務省において、ご自身が座長を務める「ASP・SaaSの情報セキュリティ対策に関する研究会」で、ガイドラインを作成されており、その一部が紹介された。詳細の解説は同ガイドを参照願いたい。

- ASP・SaaS事業者がASP・SaaSサービスを提供する際、実施すべき情報セキュリティ対策全般を対象。
- 積極的かつ幅広い利用を促すため、可能な限り分かりやすく、かつ使いやすいものになるように留意して作成しており、「序編」、「組織・運用編」及び「物理的・技術的対策編」の3編から構成。

主な内容は、次の通りである。

- (1)狭義のセキュリティに関連して
クラウドユーザのための検疫ネットやセ

セキュリティ監視、セキュリティ応急対応と組み合わせたEnd-Endセキュリティサービス技術

(2)ディペンダビリティに関連して

BCP (business continuity plan)・BCM (business continuity management) 技術

(3)トラストに関連して

クラウドサービス提供者のようなサーバなどの管理者であっても不正を行えばすぐにわかる技術。サーバの管理者であれば記録の消去などいろいろな処理を行い得るのでその実現は簡単ではないが重要な技術である。

最後に、これらを実現するため、耐タンパー性に優れた装置を考えて試作するとのご説明であった。(図4)

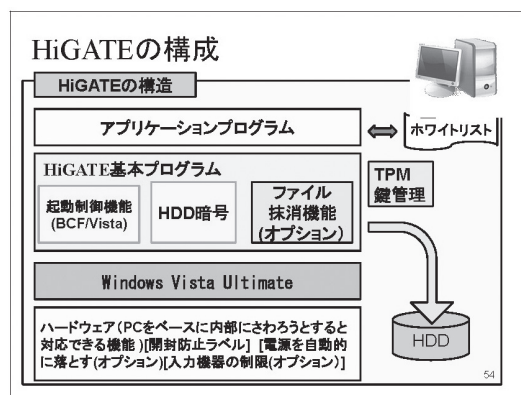


図4

以上のように、クラウドコンピューティングの環境下では、不正の有無を証明するためのデジタルフォレンジックがますます大切になっていく。

(感想)

コンピュータシステムの企画・開発・運用の場面において、多くの事業者が激しい国際競争を繰り返しているなかで、それぞれの事業者は自分の得意分野だけを強調しがちです。利用者は、その声の大きさや宣伝の巧みさに巻き込まれてしまう場合が多いのが実情でしょう。そして、活用の成果や投資効果が見えなくて困ってしまう。

システム監査には、局所的な問題分析と解決の方向性を追求することも必要であるが、その基本には、全体像を示して、その中で解決方向と優先度を示す大切な役割がある。

今回のご講演では、クラウドコンピューティングの環境下では、不正の有無を証明するためのデジタルフォレンジックの整備と活用が大切になっていくとまとめられたが、そのデジタルフォレンジックは、何かのソフトウェアやツールを購入・導入すれば実現できるような仕組みではない。組織の中での責任と権限、役割分担、業務ルールに基づく確実な業務の実践など、関係者全員が分担して実現する仕組み作りこそが、企業や組織のシステムであり、システム監査に対する社会的使命の重要性の高まりを改めて認識した講演であった。攻撃のパターンは多種多様、高度化複雑化の一途をたどっている状況で、外敵や内部のミスに対応していくことは至難の業ではないだろうか。個人的には、たとえば図4というホワイトリストの信頼性の条件を強化することで、それ以外の負荷を軽減する方法はないものかと思う。(文責：竹下)

第 9 期 総会資料

目 次

1 平成21年度 事業報告	6
第1部 事業概要	6
第2部 会計報告及び会計監査報告	28
2 平成22年度 事業計画(案)	32
3 平成22年度 予算(案)	42
4 平成22年度 役員選任	43
5 「システム監査これからの10年」提言・要望事項への 対応状況と今後の取組み計画	44



特定非営利活動法人

日本システム監査人協会

平成21年度 事業報告

第1部 事業概要

1. 本 部

1. 全般概要

(1)会員の状況(平成21年12月末現在)

正会員・個人 …………… 973名

正会員・団体 …………… 36社

入会申込は個人63名、法人3社と順調であるが、退職などによる退会者が上回り、今年度も個人会員1000名を維持できなかった。

なお、地方会員の組織として北海道・東北・中部・北信越・近畿・中四国・九州の7支部がある。また東京都中央区に本部の事務所を置いてある。

(2)理事会等の本部活動状況

理事会の活動

開催 1/8, 2/5, 3/12, 4/9, 5/14, 6/11, 7/9, 9/10, 10/8, 11/12, 12/10

理事会は、当協会の活動の原点であり、活動の諸案件が毎回活発に議論され審議・決定されてきた。その議事録は会員メーリングリストで報告し、会報に掲載したとおりである。

研究会等の活動(詳細は別項)

○月例研究会

月例研究会(沼野伸生主査)は、システム監査に関係ある時代の動向を先取りした主題で講演会を設営し、今期は8回で879名(前年比38名減:平均参加者数110名)の参加を頂いた。

システム監査事例研究会

理論を監査の実践の場に生かすシステム監査事例研究会(吉田裕孝主査)のシステム監査実務セミナー2回、内部統制セミナー3回、及び今年から開始したシステム監査入門セミナーを1回開催した。なお、システム監査普及サービスについては受注がなく実施しなかった。

○システム監査基準研究会

システム監査基準研究会(松枝憲司主査)は、21年度の作業成果として「システム監査基準 for オフショア」を協会HP上に公開し、会員及び広く一般から意見を収集した。

会報・広報・事務局活動等

定例の活動については、各研究会、分科会を含めて別に具体的報告がある。ここでは特記事項のみをまとめて報告する。

会員に対するコミュニケーションの最大的手段として「日本システム監査人協会報」(竹下和孝主査)を発行している。今年は「システム監査今後の10年」の活動を支援し、CSAの活動、支部の活動、監査の動向などの特集を組んだ。

また、法人部会(小野修一主査)は、定例部会を月1回実施し、会員企業同士でシステム監査ビジネスに関する情報交換を行うとともに、地方自治体向けおよび民間企業・団体向け情報セキュリティセミナーの企画・案内を行った。

「CSA利用推進」(力利則主査)は、CSA・ASAの交流の場として「CSAフォーラム」を1月、3月、6月、7月、9月、12月の計6回開催し、毎回約20名の参加者を得て、講師による報告と意見交換を行い、参加者にとって有意義な場の提供ができた。

事務局(馬場事務局長、金子副事務局長)は、ホームページのリニューアル、入会申込、セミナー申し込み等の入力フォームの改善、LAN環境の整備など、事務局作業の平準化、効率化のための対策を講じた。

(3)公認システム監査人、システム監査人補の認定

①認定登録の状況

8年目の公認システム監査人及びシステム監査人補の認定は以下のとおり行うことが出来た。公認システム監査人は春季11名、秋季11名、システム監査人補は春季8名、秋季15名で合計45名の方々の認定が終了した。

その結果、累計では公認システム監査人が425名、システム監査人補が230名、あわせて総勢655名の資質の継続・維持・向上も担保されたシステム監査人が認定登録されたことになる。

今回も認定業務では、面接業務（鈴木信夫主査）が審査として重要な役割を担い、東京地区の他に大阪（2回）、名古屋、仙台、広島の支部所在都市でも行われた。それぞれ原則として土曜日に実施し面接委員は1組2名であたった。

②認定更新の状況

平成14年度、平成17年度に認定登録された公認システム監査人及びシステム監査人補の方々の認定更新に際し、公認システム監査人64名、システム監査人補163名の方々が失効となった。その結果、前記①に記載のとおり累計655名の陣容となっている。

平成15年度、平成18年度に認定登録された公認システム監査人及びシステム監査人補の方々については、昨年すなわち平成21年の年末に認定期限が到来したが、この認定更新時期を1月末と変更し、現在更新認定作業中である。

③特別認定講習実施状況

教育研修委員会（鈴木実主査）の別項の報告のとおり、実施機関2社の合計19回延べ30名の講習が実施された。

④CSA継続研修

今年は下記の内容でCSA継続研修を実施した。

- ・ 日 時：10月24日(土) 13:30～17:00
- ・ テーマ：地域金融機関の情報システム、現下の課題を探る～プロジェクト管理/外部委託/共同化～
- ・ 講 師：日本銀行金融機構局 企画役 大石 正人氏

2. 教育研修委員会

本年度も前年同様、特別講習認定機関に委託により会のコースを実施した。

(1)論文・プレゼンテーションコース(1日コース)

実施回数：東京6回、大阪2回 計8回

実施時期：2月2回、3月1回、5月1回、8月2回、11月1回、12月1回

受 講 者：12名

(前年度実績：13回 受講者26名)

(2)システム監査に関する知識コース(2日コース)

実施回数：東京8回、大阪2回 計10回

実施時期：2月2回、3月2回、5月1回、8月3回、9月2回、11月1回、12月1回

受 講 者：17名 (前年度実績：14回 受講者35名)

(3)情報システムに関する知識コース

実施回数：東京1回、大阪0回 計1回

実施時期：10月1回

受 講 者：1名 (前年度実績：3回 受講者9名)

(4)特別講習実施機関および実施回数

・(有)インターギデオン 1日コース6回、2日コース9回 計15回

・情報システム監査(株) 1日コース2回、2日コース2回 計4回

合計19回、受講者延べ 30名

(前年度実績 1日コース7回、2日コース11回合計 15回、受講者延べ 60名)

(5)コース運営管理について

・各コースともに採点結果を、事務局で評価した。特に問題の発生はなく、本年度は再テストも発生しなかった。

3. 会 報**(1)概要**

会報部会では、年6回の会報誌の定期発行を通じて、会員相互のコミュニケーション向上を図っています。今回は特に、「システム監査今後の10年」の活動を支援するため、CSAの活動、支部の活動、情報システム以外の監査の動向などを特集に組み込みながら編集しました。

また、各種研修会参加者からの受講報告も増えてきている。

2009年度会報担当委員

竹下和孝(主査)、吉田裕孝、仲 厚吉、桜井由美子、成 楽秀、片岡 学、山田 隆、木村陽一、須田 勉、藤野明夫、山田正寛

今回は、一部、会報の電子化を実施しました。今後、電子化に伴う不便さも出てくるかと思いますが、順次対応してまいります。

(2)2009年に発行した会報の内容

号 数	発行月	特 集	主な投稿記事(投稿者の敬称略)
106号	2009.2	特集(鈴木、清水) 中部(大野、栗山、中村、 安井、浦田、若原)	・第142回月例研究会報告(藤野) ・CSAフォーラム報告(斎藤) ・九州支部(藤平、梶屋、諸藤)
107号	2009.4	総会特集記念講演 (太田)	・第10回内部統制監査人セミナー開催報告(沼野、大竹) ・第141回月例研究会報告(吉田) ・第144回月例研究会報告(市川)
108号	2009.6	CSA 活動紹介(斎藤)	・北信越報告(梶川、白井、竹村、清水、森) ・投稿論文(宮下)
109号	2009.8	21世紀の監査(竹下)	・145回月例参加報告(渡辺)
110号	2009.10	近畿支部報告(小宮、 是松、岡田、徳田、石綿) セミナー参加(広瀬、江 村、田淵、安福)	・北信越報告(栃川、宮本、森) ・148回月例参加報告(久保木) ・セミナー報告(小松)
111号	2009.12	基準研オフショア	・CSA継続研修報告(大石) ・北信越(白井、宮本、森) ・近畿(深田、尾浦)

(3)2009年の投稿論文

1編の応募(宮下重美さん)があり、査読の結果、実務に有益との判断で108号に掲載した。

4. 月例研究会

平成21年度は、以下の通り年間8回の研究会（例年通り）を実施した。

回目	開催月日／ 場 所	テーマ／講師	参加 人数
144	1月23日(金) 総評会館	テーマ：「ビジネス・プロセス・マネジメント (BPM) 入門」 講 師：日本BPM協会理事 事務局長 横川省三 氏	84
145	4月28日(火) 総評会館	テーマ：「金融業務における情報セキュリティと暗号技術 —暗号アルゴリズムの世代交代問題を中心に—」 講 師：日本銀行金融研究所 情報技術研究センター長 岩下 直行 氏	117
146	5月25日(月) 総評会館	テーマ：「高度情報化社会を見据えた情報システム・ソフトウェアの 信頼性向上に向けた取組み」 講 師：経済産業省商務情報政策局情報処理振興課 課長補佐 安田 篤 氏	89
147	6月17日(水) 総評会館	テーマ：「IT-ADRセンターの取組みと今後の課題 ～LT式システム紛争解決サービスとIT-ADRセンターの意義～」 講 師：エルティ総合法律事務所 所長・弁護士 藤谷 護人 氏	91
148	7月28日(火) 総評会館	テーマ：「プロジェクト監査への取組事例」 講 師：株式会社三菱東京UFJ銀行 監査部業務監査室 上席調査役 金田 雅子 氏	198
149	8月31日(月) 総評会館	テーマ：「内部統制報告制度におけるIT統制の評価・監査を終えて ～IT統制の1年目の総括と、2年目に向けた経営者、 そして外部監査人に向けての提言～」 講 師：あずさ監査法人IT監査部パートナー 遠藤 誠 氏	92
150	11月9日(月) 総評会館	テーマ：「情報サービス産業の現状と課題」 講 師：株式会社NTTデータ経営研究所 パートナー情報戦略コンサルティング本部長 三谷 慶一郎 氏	95
151	12月25日(金) 総評会館	テーマ：「IFRSの概要とシステム監査について」 講 師：有限責任監査法人トーマツ 新潟事務所 所長 白井 正 氏	113

○年間の開催回数は8回（前年比1回減）、総参加者数は879名（前年比37名減）で、各回の平均参加者数は110名（前年比8名増）であった。総参加者数は開催回数が1回少なかったこともあり、若干減少しているが、各回の平均参加者数は約10名増加しており、前年に比し多くの方々に参加頂いたと言える。引き続きホットなテーマ、幅広い講師招聘をすすめ、多くの会員等の期待に応えていきたい。また、参加者の内、当協会の会員以外の方の割合が約35%（前年比増減なし）となった。

当協会の月例研究会が、協会以外の方々からも引き続き注目され、今年も毎回多くの方々にご参加頂いた。

○講師の方の所属は、中央官庁（含. 日銀）が2名、監査法人が2名、民間企業・団体が2名、法律家が1名、当協会会員が1名であった。これはほぼ予定通りのバランスであった。

○各支部へ配付している録画ビデオは、各支部主催の研究会等でこれまで以上に積極的に活用されている。

○引き続き受付に定期的に学生アルバイトを配置し、多くの参加者のスムーズな受付業務を心がけた。

5. 法人部会

(1) 法人正会員 36社 (平成21年末現在)

入会 次の3社

- ・有限会社 Career-bridge
- ・ソフトウェアファクトリー株式会社
- ・イーコーポレーションドットジェービー株式会社

退会 1社

(2) 活動内容

- ① 定例部会を月1回開催した。
- ② 法人正会員の増強を図るべく、次のところに入会案内のDMを送付した。
 - ・平成21年度システム監査企業台帳登録企業
- ③ 「自治体向け情報セキュリティセミナー」の内容を見直し、21年度版として案内した。
 - ・セミナー案内のDMを、全国都道府県の市以上の自治体に送付した。なお、各支部管轄の道府県については、各支部から送付していただいた。
 - ・当協会のWebサイトで広報活動を行った。
- ④ 新たに「民間企業・団体向け情報セキュリティセミナー」の企画を立て、当協会のWebサイトでの広報、FISA (情報システム・ユーザ会連盟) 主催のシステム監査講演会 (2009/10開催) での案内チラシの配布を行った。
- ⑤ 「情報セキュリティセミナー」のコンテンツについてレビュー・見直しを行った。
- ⑥ 会員同士のシステム監査の普及・ビジネス化についての情報交換を行った。特に、後半は、BCP (事業継続計画) をテーマとして、公式に発表されているガイドライン、報告書などを題材に情報・意見交換を行った。

6. CSA利用推進

(1) 活動の概要

- ・CSA利用推進の取組みは本年度で4年目に入り、本年度は、主にCSAのフェイスtoフェイスの相互研鑽、情報共有、議論の場としてCSAフォーラムをほぼ隔月に6回開催した。
- ・CSAフォーラムは、CSA (ASA含む) 約百数十名の事前登録者を対象に、1月、3月、6月、7月、9月、12月に開催し、各回20数名の参加者に集まっていた。毎回講師による実践的なテーマの報告により参加者にとって有益な場の提供ができ、フェイスtoフェイスの交流が進んだ。
- ・昨年度以前から取り組んできたCSAパンフレットやCSA認定カード、CSAを入札条件に入れる依頼文の周知、CSA関連サイトの充実等についてはあまり活動ができなかったことを反省している。

(2) 活動の目的

- ・「CSAのプレゼンスを高める。CSAの社会的な評価や価値を高める。CSAの社会的な認知度を上げる。CSAになって良かったと思ってもらえる。CSA認定の付加価値を高める。CSAが社会的に認められ活動がしやすくなる」ということを活動の目的としている。
- ・今年度はCSAフォーラムによりCSA同志の交流と輪を広げることにより、相互連携等を行う基礎固めを第1の活動目標とした。

(3) CSAフォーラム活動

- ・昨年度よりCSA認定取得者の相互研鑽、情報共有、フェイスtoフェイスの意見交換の場として、“CSAフォーラム”を開催している。当初、CSA (ASA含む) 認定取得者全員に募集案内を出し、事前登録者約百数十名の登録があった。事前登録はその後随時受け付けている。事前登録者に対して、“CSAフォーラム”の開催案内を発信して、各回とも20数名の参加者を得ることができている。今年の開催内容は次の表の通りである。

月日	開催回	テーマ	報告者	概要
1/27	第3回	「CSA実践報告 & 基準研紹介」	松枝憲司氏	・ CSA資格のビジネス活用事例 ・ システム監査基準研究会の活動紹介
3/5	第4回	「内部監査から見た システム監査」	島田祐次氏	・ システム監査を取り巻く環境と位置づけ ・ 内部監査と外部監査・システム監査の実践
6/1	第5回	「組織人を幸せにする マネジメントシステム を目指して」	桜井由美子氏	・ マネジメントシステムの有効性、効率性 ・ JIS規格の本来意と日々の活動の実践
7/23	第6回	「システム監査の実践を 通してのCIOの 役割・課題への貢献」	小野修一氏	・ CIOに対するシステム監査の活用 ・ システム監査の事例とCIOの役割、 課題と問題解決
9/24	第7回	「オフショア開発成功の ためのシステム監査」	山田隆氏	・ オフショア開発の背景、開発モデル、問題点 ・ オフショア管理基準を用いた システム監査実施の提案
12/2	第8回	「今までの振り返りと 今後の予定」	CSAフォーラム 事務局	・ CSAフォーラムの第1～7回の振り返り ・ 参加者の要望と今後の予定

7. システム監査事例研究会

(1)研究会メンバー：109名(2009年12月現在)

(2)月例研究会開催

定例会 毎月第一水曜日 18:30～20:30

10回開催 延べ出席者数 132名

内容

- ・ 事例研メンバー講師による講演及び関連事項の討議
- ・ システム監査実務・実践セミナーの運営に関する打ち合わせ
- ・ 既存セミナーの見直しと新セミナーの開発

(3)システム監査サービス

監査依頼の打診はあったものの、受託には至らなかった。

(4)システム監査実務・実践セミナー

- ・ 本年は4日間コースを1回開催し、1996年から実践・実務セミナーは通算32回の開催実績となった。

9月に予定していた実務セミナーは受講申込が催行人員に満たず、開催を見送った。

- ・ 実務セミナー4日間コースは、2002年から開始し通算13回目となり、公認システム監査人の教育制度の一環として定着してきている。

①第32回(第13回実務セミナー4日間コース)

日 時：2月14日 10:00～ 15日 15:00

2月21日 10:00～ 22日 15:00

場 所：千葉市幕張 海外職業訓練センター(OVTA)

参加者：受講生7名、講師2名

②第33回(第14回実務セミナー4日間コース)

日 時：8月29日 10:00～ 30日 15:00

9月5日 10:00～ 6日 15:00

場 所：千葉市幕張 海外職業訓練センター(OVTA)

- ・ 実践セミナー2日間コースは、近畿支部で開催された。

(5)内部統制セミナー

・J-SOX法に基づき、上場会社で構築、整備されたITの内部統制を、独立し客観的な立場で監査する監査人養成を目的として、2007年4回開催したセミナーを平日3日間コースに拡張し、ITの全般統制に焦点をあてた実践の内容で、本年1回開催した。日本における内部統制が、構築から運用段階に入ったことにより、セミナーに対するニーズに変化が生じており、来年度以降の開催方法に工夫が必要となる。

①第10回内部統制セミナー2日間コース

日 時：1月24日 10:00～25日 17:00

場 所：千葉市幕張 海外職業訓練センター (OVTA)

参加者：受講生10名、講師3名

②第11回内部統制セミナー2日間コース

日 時：4月25日 10:00～26日 17:00

場 所：千葉市幕張 海外職業訓練センター (OVTA)

催行中止

③第12回内部統制セミナー3日間コース

日 時：7月23日 10:00～25日 17:00

場 所：東京都千代田区 総評会館

参加者：受講生9名、講師3名

④第13回内部統制セミナー3日間コース

日 時：8月24日 10:00～26日 17:00

場 所：情報セキュリティ大学院

催行中止

(6)システム監査入門セミナー

情報システム監査の必要性を認識していただくために、情報システムの事故・障害事例を題材に、新しいセミナーを開発した。

内容は、発生原因となったリスクを解き明かすと同時に、システム監査を行うことによって、事例の未然防止も可能であったことを解説します。

①第1回システム監査入門セミナー

日 時：9月12日 13:30～16:30

場 所：山形県寒河江市

参加者：受講生16名、講師2名

教材開発チームは情報システム事故・障害事例の収集・整理を行い、多様な受講生を対象に出来るようなセミナー教材の準備を完了した。

8. 情報セキュリティ監査研究会

(1)平成21年研究会研究項目

①情報セキュリティ監査基準の監査に関する情報・ノウハウの共有

②情報セキュリティ監査基準を利用する「基準ツール」の充実を図る

『情報セキュリティ監査のためのリスクの洗い出し監査ツールの利用』の一般化、普及

(2)活動結果

21年にはメンバーの時間がとれず、十分な活動が出来なかった。その為、21年に計画した内容のうち、「リスクの洗い出し」のデータ作成と、それを検索・利用する方法の検討までに止まった。

(3)検討の経過

- ① “情報セキュリティ監査を効果的にはどうやるか” を課題としている。基本となる “リスクを洗い出す方法” については、情報取扱いのフロー※に基づくリスクアセスメントの手法により検討し、情報資産項目をキーにリスク要因を洗い出し、その対応方法を検討し、ツールの材料とする検討を進めた。

※業務フローとは、オペレーションフロー、システムフロー、ワークフローなどをいう。

ノウハウの共有として、赤本に掲載した「基準ツール」の充実を図ることと、当研究会以外で試行してもらうことも意識したものである。

9. システム監査基準研究会

(1)研究項目

- ① SAAJシステム管理基準体系

(2)研究会項目

- 1) 各種開発環境・手法における監査のポイント

①「システム管理基準forオフショア」について、HP上に公開して、会員と一般から、パブリックコメントを募集した。(10月～12月)

②「Webシステムにおける監査のポイント」(開発・利用)

原案を作成済みで、研究会内のレビュー中。

③「BCMにおける監査のポイント」

原案を作成済みで、研究会内のレビュー中。

④「プロジェクトマネジメント監査のポイント」

原案作成中

⑤「パッケージ導入における監査のポイント」

検討中

- 2) システム監査の視点の整理(特に有効性)

「目的適合性に関する監査の着眼点」と「投資対効果に関する監査の着眼点」から整理することを確認した。

- 3) COBIT4.1とシステム管理基準のマッピング作業の作成
作業中

(3)定例研究会

・定例研究会は、原則月1回開催した。

10. 個人情報保護監査研究会

当研究会は、個人情報保護の普及と、プライバシーマークの認証取得のためのセミナーの開催等に取り組んできたが、既にプライバシーマーク認証取得事業者が全国で1万を超えた状況にあり、これらの活動に対するニーズが少なくなってきた。そのため活動としては、メールによる情報交換と個人情報保護に関するガイドラインの改正等の関連情報を早期に入手し、メンバに提供した。このほか、NPO法人個人情報保護有識者会議研究会(9月30日開催)にオブザーバーとし出席し、当協会のPRと情報交換を行った。

11. 「システム監査これからの10年」10の提言対応チーム

当協会設立20周年事業でとりまとめた「システム監査のこれからの10年」報告書の中で発表した10の提言に対する対応を検討していくチーム活動を行った。

・チームメンバー；当該報告書のとりまとめに係わったメンバー

・主な活動内容；

- (1)主担当者を決めての、関連情報収集、論点・考え方の整理
- (2)月1回程度、チームメンバーが集まっての討議
- (3)有識者、関連団体との意見交換
 - ・学識経験者(大学教授)
 - ・行政機関(経済産業省セキュリティ政策室)
 - ・会員に参加してもらっての討議会

詳細については、別添資料をご参照ください。

II. 北海道支部

1. 第8回支部総会実施

日 時：12月11日(金) 18:30～20:00

内 容：2009年活動報告、2010年活動計画、2010年役員選出、2010年研究会・勉強会計画、
2009年会計報告および2010年会計予算について

参加者：参加9名、委任10名

2. 定例研究会・勉強会実施

- (1)第1回VTR研究会：日時：1月16日(金)18:30～20:30

テーマ：「郵便局株式会社におけるSaaS活用の概況について」

－第141回研究会のビデオ上映とディスカッション－

参加者：11名、うち支部員9名

- (2)第1回研究会：日時：2月16日(月) 18:30～20:30

テーマ：「SOAの考え方と技術動向」

－新しいシステム構築の考え方に関する研究発表とディスカッション－

参加者：7名、うち支部員7名

- (3)第2回VTR研究会：日時：3月18日(水) 18:30～20:30

テーマ：「CIOとガバナンス」

－第140回研究会のビデオ上映とディスカッション－

参加者：11名、うち支部員10名

- (4)第2回研究会：日時：4月22日(木) 18:30～20:30

テーマ：「金融機関のシステム統合 Part2 ～三菱東京UFJ銀行の結果を受けて」

－金融機関のシステム統合の実務を通じた研究発表とディスカッション－

参加者：17名、うち支部員11名

- (5)第3回VTR研究会：日時：5月25日(月) 18:30～20:30

テーマ：「経済産業省の情報セキュリティガバナンス構想」

－第143回研究会のビデオ上映とディスカッション－

参加者：8名、うち支部員7名

- (6)第3回研究会：日時：6月25日(木) 18:30～20:30

テーマ：「ソフトウェア開発におけるモデル契約書」

－ソフトウェア開発契約に関する研究発表とディスカッション－

参加者：7名、うち支部員5名

- (7)第4回研究会：日時：7月13日(月) 18:30～20:30

テーマ：「本部事例研活動とシステム監査事例」

－内部監査の事例を基にしたシステム監査の研究とディスカッション－

参加者：14名、うち支部員13名

(8)第4回VTR研究会：日時：8月24日(月) 18:30～20:30

テーマ：記念講演「経済犯犯罪」

－2009年総会時の記念講演のビデオ上映－

参加者：7名、うち支部員7名

(9)第5回VTR研究会：日時：9月30日(水) 18:30～20:30

テーマ：「ビジネス・プロセス・マネジメント(BPM)入門」

－第144回研究会のビデオ上映とディスカッション－

参加者：13名、うち支部員12名

(10)第5回研究会：日時：10月19日(月) 18:30～20:30

テーマ：「プライバシーマーク取得体験談」

－自社のプライバシーマーク取得における研究発表とディスカッション－

参加者：10名、うち支部員9名

(11)第6回VTR研究会：日時：11月17日(火) 18:30～20:30

テーマ：「金融機関におけるプロジェクト監査への取り組み事例」

－第148回研究会のビデオ上映とディスカッション－

参加者：15名、うち支部員11名

3. 広報活動

支部活動について対外的に広報、および支部員勧誘を行った。

・他団体との交流：北海道ITコーディネータ協議会、日本システムアナリスト協会北海道支部、および社団法人 中小企業診断協会北海道支部との講演会共催、勉強会の相互開放

・支部員の変動：2008年度 個人会員26名、法人会員3名

2009年度 個人会員25名、法人会員3名

・支部活動への参加：上記個人会員以外に、非会員7名、他支部3名および本部1名参加

・公認システム監査人4名、システム監査人補4名(計8名中支部員6名)

4. メーリング・リストによる連絡

・支部メーリング・リストにより、支部員間の連絡および情報交換を実施している。

5. ホームページによる情報発信

・協会のホームページの支部のコーナーに、北海道支部の情報を記載している。

Ⅲ. 東北支部

平成15年6月28日に設立した東北支部は、第7期の活動として、会員の増加、システム監査の普及、支部のPRなど、計画に基づいて以下のとおり活動した。

1. 平成21年度東北支部総会

・平成21年1月17日(土) エルソーラ仙台「研修室1」

出席者：会員数38名 出席者26名(内委任状13名)

・議 題：報告事項1 平成20年度事業活動

報告事項2 平成20年度収支報告

第1号議案 平成21年度活動計画

第2号議案 平成21年度予算計画

第3号議案 平成21年度役員選任

支部長：高橋 典子

副支部長：佐藤賢一、田口三郎
研究会：高橋壮太、小野寺司、舘田あゆみ
広報：櫻谷昭慶、横倉正教
会計：佐藤雅英
監事：成田由加里
顧問：鈴木 実

・勉強会(総会終了後)

ネットコンピューティングアライアンス会長・津田邦和氏著書「ブロードバンドSaaSがつくる新市場」を参考に、出席者による「SaaSとシステムSaaSとシステム監査」というテーマでの意見交換を実施。

2. セミナー・ワークショップ

(1)事例発表セミナー in 寒河江

テーマ：なぜ？ そのコンピューターは動かないのか
システムの事故・障害、起きる仕組みと防ぐ仕組み
＜事例から学ぶシステム監査の役割＞

日程：平成21年9月12日(土)13時30分～16時30分

場所：ホテルサンチェリー（山形県寒河江市）

参加者：16名

内容：事例1：大手電機メーカーの受発注・物流システムの障害
事例2：医療機器メーカーの統合システム構築工程の障害
日本システム監査人協会 矢島 利夫 氏・大西 智 氏

※翌日、会員交流会として、そば打ちを実施し、相互の親睦を深めた。

(2)ITCみやぎ・SAAJ東北、JSAG東北ワークショップ2009

日程：平成21年10月23日(金)～24日(土)

※当支部が主催担当は、24日9時～12時

場所：戦災復興記念館 大会議室

参加者：37名

主催：日本システム監査人協会東北支部
ITコーディネータ宮城県(ITCみやぎ)
日本システムアナリスト協会東北支部(JSAG東北)

後援：経済産業省推進プロジェクト「東北IT経営応援隊」
東北経済産業局、NPO法人ITコーディネータ協会

内容：①講演「中小企業経営者が求めるもの」
(株)日本政策金融公庫 支店長兼中小企業事業統轄 田部 貴夫氏
②講演「内部統制報告制度におけるIT統制の評価・監査を終えて」
日本システム監査人協会 理事 遠藤 誠氏

3. 定例研究会及び役員会

(1)3月例会

- ・平成21年3月7日(土) 14:00～17:00
福島市 コラッセ福島 3F 302A会議室
- ・報告事項
本部定時総会の報告
- ・勉強会「IT統制監査実践マニュアル」第5回勉強会

(2)5月例会

- ・平成21年5月23日(土) 14:00～17:00

仙台市AER28階 エル・ソーラ仙台「研修室2」

- ・報告事項
連絡事項等
- ・勉強会「J－SaaS勉強会」

(3)7月例会

- ・平成21年 7月18日(土) 14:00～17:00
仙台市AER 28階 情報・産業プラザ 特別会議室
- ・報告事項
9月の山形合宿セミナーについて
- ・勉強会「クラウドコンピューティングに関する情報交換」

(4)11月例会

- ・平成21年11月21日(土) 14:00～17:00
カメイ仙台中央ビル(株式会社富士通東北システムズ 研修会議室)
- ・報告事項
ワークショップ報告
支部総会について
- ・勉強会「J－SaaSについて」

(5)12月役員会

- ・平成21年12月19日(土) 17:30～19:30
カメイ仙台中央ビル(株式会社富士通東北システムズ 研修会議室)
- ・議題
- ・支部総会および講演について
- ・本部への報告事項について

4. 情報交換

隔月毎に開催している月例会(東北南部三県幹事持ち回り)後には、懇親会を実施して、各県の状況および会員間での情報交換を行った。9月の月例会はセミナーに変更し、翌日そば打ち体験を実施し、親睦を深めた。

また、メーリングリストによる本部情報、支部会員間の連絡および情報交換を実施した。

5. 広報宣伝活動

- ・20周年記念事業を通して、東北各地のITC組織、日本システムアナリスト協会東北支部、東北経済産業局、東北IT経営応援隊などに対して、システム監査の普及および支部活動の宣伝を行った。
 - ・システム監査入門コースin寒河江(9月12日)やITCみやぎ・SAAJ東北・JSAG東北ワークショップ(10月23日・24日)を通して、一般参加者、東北各地のITC組織、日本システムアナリスト協会東北支部、東北経済産業局、東北IT経営応援隊などに対して、システム監査の普及および支部活動の宣伝を行った。
- なお、システム監査入門コースin寒河江においては、山形新聞にセミナー案内をアプローチし、後日、新聞に掲載された。

Ⅳ. 北信越支部

1. 本年度の目標

- ・研究チーム継続によるシステム監査の技術基盤の向上。
- ・本部、他支部との交流による知識、技術力の向上。
- ・プレゼンテーション能力の向上。

・インターネットを活用した組織コミュニケーションの向上。

2. 活動報告

(1)1月31日(土) ITビジネスプラザ武蔵 5F 研修室

参 加：宮本様、國谷様、尾島様、清水様、木村様、角屋様、森田様、福田様、神田様、白井様、河村様、小嶋様、森

内 容：①2008年の報告・2009年の予定 森

②報告1「将来のあるべきIT戦略を考える」

清水 尚志 氏

③報告2「ISO/IEC15408の企画・開発業務監査への適用について(仮題)」

木村 武志 氏

④システム監査研究会経過報告

経済産業省 IT経営協議会

「IT経営ロードマップ 事例1：(株)リコー」 森 広志 氏

⑤研究会ビデオの貸し借り

(2)3月14日(土)アーバンプレイス富山8階会議室

参 加：宮本様、國谷様、坂井様、小嶋様、尾島様、白井様、森田様、森

内 容：①年度総会

・昨年度行事報告と今年度行事計画について

・昨年度会計報告と今年度予算について

②講演

「経営とITについて」 國谷 吉英 氏

③システム監査研究会経過報告

「IT経営ロードマップ 事例2：JFEスチール(株)」について

森 広志 氏

④情報セキュリティ監査研究会経過報告

「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイドライン」概要説明

宮本 茂明 氏

⑤研究会ビデオの貸し借り

(3)5月16日(土) 中部支部5月例会

岐阜県大垣市ドリームコア マルチメディア研修室

(医療情報に関するテーマを受け、北信越支部より発表)

「医療機関の個人情報保護研究について」 宮本 茂明 氏

(4)6月20日(土) 福井織協ビル 803号室

参 加：角屋様、栃川様、宮本様、國谷様、福田様、小嶋様、森田様、清水様、木戸様、坪田様、齊藤様、佐藤様、森

内 容：①近況報告

②発表「J-SaaSとクラウド」

栃川 昌文 氏

③発表「中小企業のセキュリティ監査」

前中部支部長 大野 淳一 氏

④システム監査研究会経過報告

「IT経営ロードマップ・事例5：イオン株式会社、及びウォルマートのIT戦略」

森 広志 氏

⑤情報セキュリティ監査研究会経過報告

「医療機関の個人情報保護研究」活動状況と今後の予定

宮本 茂明 氏

⑥研究会ビデオの貸し借り

(5)9月12日(土) 監査法人トーマツ 新潟事務所 会議室

参 加：宮本様、白井様、神田様、清水様、木村様、森田様、國谷様、森

内 容：① 近況報告

②発表「IFRS(国際財務報告基準)の概要とシステムに対する影響」

公認会計士 白井 正 氏

③「情報システムの信頼性向上に関するガイドラインについて」

宮本 茂明 氏

④「IT経営ロードマップ 事例3(株)JT B

及びホリスティック・マーケティングとIT経営可視化について」

森 広志 氏

⑤研究会ビデオの貸し借り

(6)11月14日、15日 西日本支部合同研究会 in OSAKA Bay

大阪ワールドトレードセンタービルディング,ホテルコスモスクエア 国際交流センター

内 容：①各支部活動報告

②基調講演 「コンプライアンス問題とシステム監査」

大阪成蹊大学 松田貴典教授

③発表1 「企業コンプライアンスと内部告発」

関口 幸一氏(中部支部会員)

④発表2 「コンプライアンスの形骸化に対する

システム監査のあり方」荒添 美穂氏(九州支部会員)

⑤フリーディスカッション

(7)12月12日(土) ITビジネスプラザ武蔵 4F 情報化研修室

参 加：白井、角屋、宮本、國谷、小嶋、河村、森田、清水、森

内 容：①今年度の報告、来年度の予定 森広志 氏

②報告「西日本支部合同研究会参加報告」

宮本 茂明 氏、森広志 氏

③システム監査研究会経過報告

「IT経営ロードマップ・事例4：カルビー(株)」について

森 広志 氏

④情報セキュリティ監査研究会経過報告

「情報セキュリティガバナンス実態調査2008」について

宮本 茂明 氏

⑤研究会ビデオの貸し借り

3. 支部役員

支 部 長：森広志(富山)

副支部長：宮本茂明(石川)、梶川明美(富山)、白井正(新潟)

顧 問：伊藤祐太郎(富山)、松原一彦(石川)

会 計：坂井敏之(富山)、情報統括 清水尚志(石川)

県部会長：角屋典一(福井)、木村武志(石川)、國谷吉英(富山)、風間一人(新潟)、堀明雄(長野)

書 記：尾島純子(富山)

監 事：高瀬清春(富山)

V. 中部支部

1. 活動方針

- ・中部支部内会員、およびの継続的な相互研鑽・交流を図る。
- ・中部支部以外の地域や団体との人材交流を積極的に展開していく。

2. 活動体制 (敬称略)

支部長 : 田中 勝弘
副支部長 : 杉山 浩一
会計担当 : 早川 晃由 (新任)
会計監査 : 山田 和夫
顧問・監事 : 若原 達朗
支部担当役員 : 山崎(敏)(広報担当)、井戸(会員担当)、堤(西日本合同研究会)、石井(研究開発担当)、
原(国際取引研究・国際交流)、萬代(システム取引法務研究)、高間(渉外担当)、
関口(渉外担当)、田原(東京駐在)、山口(東京駐在)

3. 活動内容

(1)例会

- ・SAAJ中部支部総会/第1回例会(1/24 名古屋市(東桜) 参加13名)
2009年支部活動計画
 - ・例会開催の日程及び担当者の決定
3月14日、5月16日、7月11日、9月12日
開催場所は5月大垣市、9月四日市市
それ以外は名古屋市内を予定
 - ・合宿
11月28日-29日を予定
内容などは今後随時決定講演 「比較優位について」 若原 達朗 様
報告 「2008年西日本合同研究会(北信越)の報告」 堤 薫 様
- ・第2回例会(3/14 名古屋市(東桜) 参加18名)
報告「SAAJ通常総会&記念講演の報告」 早川 晃由 様
講演I 「中小企業のセキュリティ監査」 大野 淳一 様
講演II 「SaaSについて」 関口 幸一 様
- ・第3回例会(5/16 大垣市(ドリームコア マルチメディア研修室1 参加20名)
講演I 「デジタルジャパンにおける医療情報システムへの期待」 田原 保 様
講演II 北信越支部「医療機関の個人情報保護監査研究」活動状況報告 北信越支部 宮本 茂明 様
- ・第4回例会(7/11 名古屋市(東桜) 参加19名)
講演I 「CMMIとその導入に向けて」 安井 秀樹 様
講演II 「SaaS(技術編)」 関口 幸一 様
- ・第5回例会(9/12 四日市市楠福社会館2階第1会議室 参加18名)
講演「CSAフォーラムについて」 本部理事 斉藤 茂雄 様

(2) イベント

- ・ SAAJ西日本支部合同研究会 (11/14－15；大阪市)
※近畿支部／中国支部／九州支部／北信越支部と共催 (幹事支部：近畿支部)
- ・ SAAJ中部支部／JSAG中部支部合同合宿
11/28－29；知多郡東浦町 (あいち健康プラザ) 参加 (17名)
合宿テーマ：システム監査作業の実践力養成
(SAAJ近畿支部殿のシステム監査入門セミナーを活用)
講演：「小売業の販売管理システムのポイント」 (株富士通中部システムズ 増田 仙蔵 様)

VI. 近畿支部**1. 支部体制 (敬称略)****(1) 支部役員**

- 支部長：吉田 博一
- 副支部長：藤野 正純、関西 康一郎
- 会計担当：片岡 学
- 監事：福德 泰司
- 参与：木村 安寿、中谷 正明、安本 哲之助

(2) サポーター

近畿支部の運営にご協力頂くメンバーを「サポーター」として、研究会等のお手伝いやサポーター会議で運営方針の検討に参加して頂いております。

2. 近畿支部総会 1月21日(土) 大阪府商工会館 701号室

出席者：26名、委任状77名

(支部会員170名に対して過半数の出席者、委任状があり、有効に成立)

議事次第：①2008年度の活動報告及び決算について

②2009年度の事業計画及び予算について

③支部規約の改正について (総会成立要件を本部定款に合わせる)

全議案につき、承認、可決された。

3. サポーター会議

平成21年度サポーター会議 12月19日(土)

場 所：学校法人 常翔学園大阪センター 301教室

テーマ：①平成22年度の支部役員体制について

・支部役員の増員

・支部役員の決定方法

②平成21年度の振り返りと平成22年度の活動について

主な活動案

・実践セミナー (22年6月を予定)

・入門セミナー (時期未定)

・コンプライアンスのシステム監査基準研究会 (仮称)

参加者：24名

4. 定例研究会活動 (奇数月 第3金曜日 講師による発表形式)

(1) 第111回定例研究会 1月16日(金) 大阪市立大学文化交流センター

テーマ：「豊中市役所におけるISO／IEC 27001取得を振り返って」

講師：松岡 勝義氏 出席者：30名

(2)第112回定例研究会 3月19日(金) 大阪市立大学文化交流センター

テーマ：「いざという時に役立つBCPへの改善アプローチ」

講師：松井 秀雄氏 出席数：34名

(3)第113回定例研究会 5月15日(金) 大阪市立大学文化交流センター

テーマ：「プロジェクト管理と工事進行基準」講師：雑賀 努氏 出席数：40名

(4)第114回定例研究会 7月17日(金) 学校法人常翔学園大阪センター

テーマ：「IFRS(国際財務報告基準(国際会計基準))と情報システム」

講師：武田 雄治氏 出席数：58名

(5)第115回定例研究会 9月18日(金)学校法人常翔学園大阪センター

テーマ：「地方公共団体におけるICT部門の業務継続計画(BCP)」

講師：川端 純一氏 出席数：42名

(6)第116回定例研究会(ISACA大阪支部との合同講演会)12月19日(金)学校法人常翔学園大阪センター

テーマ：「国際財務報告基準(IFRS)が情報システムに与える影響について」

講師：久保 陽子氏 出席数：77名

5. システム監査勉強会 (偶数月 第3土曜日 本部月例研究会ビデオ視聴・討議)

(1)第19回 2月21日(土) 大阪府商工会館 701号室 出席者：32名

第138回「株式会社サウンドハウスにおける個人情報流出事件と対応(Web攻撃の脅威に立ち向かうには)」

(2)第20回 4月18日(土) 大阪大学中之島センター 出席数：36名

①第139回「IT経営の実現に向けて～IT経営協議会とIT経営憲章」

②第140回「CIOとガバナンス」

(3)第21回 6月20日(土) 大阪大学中之島センター 出席数：33名

①第141回「郵便局株式会社におけるSaaS活用の概況について」

②第142回「情報大航海時代の到来－リアルとネットを結ぶ知的情報アクセス基盤－」

(4)第22回 10月17日(土) 常翔学園大阪センター 出席数：37名

第149回「内部統制報告制度におけるIT統制の評価・監査を終えて

～IT統制の1年目の総括と、2年目に向けた経営者、そして外部監査人に向けての提言～」

6. セミナー活動

(1)システム監査実践セミナー

システム監査実践セミナー2日間コース(近畿支部主催)は、早期申込み割引制度を導入し、全国から受講者が集まった。

日 時：平成21年6月27日(土)～6月28日(日)

1日目13:00～21:00 2日目9:00～16:00

受講者数：16名

(2)システム監査入門セミナー

初心者向けシステム監査の体験版を行い、同内容を中部支部でも実施した。

日 時：平成21年8月8日(土)13:00～17:00

受講者数：15名

(3)近畿支部20周年+1公開シンポジウム－なんているねん！システム監査－

20周年記念シンポジウムで提起されたシステム監査の課題について、議論を深めました。

情報システムの障害により社会的に大きな影響を与えた企業に対してシステム監査の実施状況を質問・確認するようにマスコミに働きかけをするなど具体的な行動の提言がありました。

日 時：平成21年8月29日(土)13:00～17:00

場 所：大阪大学中之島センター 10F 佐治敬三メモリアルホール

内 容：基調講演「厚生労働省におけるシステム監査の活用事情」
鈴木 実 氏（日本システム監査人協会理事）
パネルディスカッション「なんているねん！システム監査」
パネラー：佐竹 博利 氏 中村 謙一 氏 雑賀 努 氏
モデレータ：浦上 豊蔵 氏

出席者：53名

(4)西日本支部合同研究会（中部支部・北信越支部・近畿支部・中四国支部・九州支部）

日 時：平成21年11月14日(土)13:30～15(日)15:30

内 容：一日目 見学会「WTCビルにおける制御系システム等」
懇親会 宿泊

二日目 研究会

テーマ：「コンプライアンスとシステム監査」

基調講演：「コンプライアンス問題のシステム監査」

大阪成蹊大学 松田貴典教授（近畿支部会員）

発表1：「企業コンプライアンスと内部告発」

関口 幸一氏（中部支部会員）

発表2：「コンプライアンスの形骸化に対するシステム監査のあり方」

荒添 美穂氏（九州支部会員）

フリーディスカッション

場 所：コスモスクエア国際交流センター（研究会、懇親会）

出席者：見学会23名、研究会36名

参加者数：近畿20名、中部6名、九州4名、中四国2名、北信越2名参加

幹 事：近畿支部

研究会では、20周年+1公開シンポジウムで出されたテーマであるコンプライアンスとシステム監査を中心に考えてみました。今後もこのテーマで研究を続けていこうということになりました。

7. システム監査サービス

i 社に対してシステム監査サービスを行い、12月18日(金)に監査報告会が行われた。

8. 支部運営体制について

支部サイトを立ち上げ、ML等の連絡や定例研究会の資料のダウンロードに利用した。

VII. 中四国支部

1. 活動概要

- ・ほぼ月に一度月例会を実施。（計11回実施）
- ・支部メーリングリストによる連絡、情報交換。

2. 活動実績

月例研究会（東京）のビデオの視聴及び情報交換を中心に月例会を実施した。

(1)平成21年1月度月例会 1月30日(金) 18:30～20:30

「CIOとガバナンス」（ビデオ視聴及び情報交換）出席10名

(2)平成21年2月度月例会 2月18日(水) 18:30～20:30

「郵便局株式会社におけるSaaS活用の概況について」（ビデオ視聴及び情報交換）出席10名

(3)平成21年3月度月例会 3月25日(水) 18:30～20:30

「情報大航海時代の到来ーリアルとネットを結ぶ知的情報アクセス基盤ー」（ビデオ視聴及び情報

交換) 出席8名

(4)平成21年4月度月例会 4月15日(水) 18:30-20:30

「経済産業省の情報セキュリティガバナンス構想」(ビデオ視聴及び情報交換) 出席11名

(5)平成21年5月度月例会 5月16日(土) 13:00-17:00

「IT投資効果の最大化に向けて」(講演)

日本システム監査人協会 副会長 三谷慶一郎 氏

「J-SOX適用初年度を終えて」(発表)

中四国支部 公認システム監査人 佐藤 康之 氏

「支部活動からみたシステム監査人の育成」(発表)

九州支部 公認システム監査人 福田 啓二 氏

「専門学校における情報セキュリティポリシー策定」

中四国支部 ITコーディネータ 白城 真也 氏 出席34名

(6)平成21年6月度月例会 6月17日(水) 18:30-20:30

「ビジネス・プロセス・マネジメント(BPM)入門」(ビデオ視聴及び情報交換) 出席7名

(7)平成21年7月度月例会 7月15日(水) 18:30-20:30

「金融業務における情報セキュリティと暗号技術—暗号アルゴリズムの世代交代問題を中心に—」
(ビデオ視聴及び情報交換) 出席5名

(8)平成21年9月度月例会 9月16日(水) 18:30-20:30

「高度情報化社会を見据えた情報システム・ソフトウェアの信頼性向上に向けた取組み」(ビデオ
視聴及び情報交換) 出席11名

(9)平成21年10月度月例会 10月14日(水) 18:30-20:30

「IT-ADRセンターの取組みと今後の課題—LT式システム紛争解決サービスとIT-ADRセンター
の意義—」(ビデオ視聴及び情報交換) 出席6名

(10)平成21年11月度月例会 11月19日(水) 18:30-20:30

「内部統制報告制度におけるIT統制の評価・監査を終えて—IT統制の1年目の総括と、2年目に
向けた経営者、そして外部監査人に向けての提言—」(ビデオ視聴及び情報交換) 出席12名

(11)平成21年12月度月例会 12月16日(水) 18:30-20:30

中四国支部総会(事業報告、事業計画、役員改選) 出席13名

3. 支部役員

支部長：溝下 博

副支部長：福田陽一、福原博明

会 計：清野敏弘

監 事：池田光孝

顧 問：大谷完次

VIII. 九州支部

1. 支部の状況と役員体制

●支部会員 50名(平成21年11月末日時点。昨年比3名減)

●役員体制

支部長：福田啓二

副支部長：船津 宏 荒添美穂

会計：松嶋 敦

監査：居倉圭司

顧問：行武郁博

地区担当：(大 分) 藤平 実 (長 崎) 平山克己
(鹿児島) 山下博美 (沖 縄) 井海宏通

2. 活動概要

(1)月例会の開催

通例どおり、月1回の月例会を開催した。(福岡市)
システム監査学会九州地区研究会との連携を継続した。

(2)支部設立20周年記念講演会を開催(12/12)

(3)他団体との合同イベントとして、今年で5回目にあたる 大分合同セミナー(5団体)を開催した(11/7)。

3. 月例会

毎月、東京での月例研究会ビデオ視聴および支部会員の研究・検討・報告事項の発表を中心に行った。

以下は各月の主要事項。(各回の主要発表事項)

(1)第218回 1月度月例会 1月24日(土) 14:00～17:00(参加:8名)

内容:ビデオ視聴 第142回月例研究会「情報大航海時代の到来
ーリアルとネットを結ぶ知的情報アクセス基盤ー」

①セキュリティ技術トピック紹介(その1)

Outbound Port 25 Blocking (福田)

②「パーソナル情報研究会報告書ー個人と連結可能な情報の保護と利用のためにー」(船津)

(2)第219回 2月度月例会 2月23日(土) 13:00～17:00(参加:9名)

内容:ビデオ視聴 第143回月例研究会

「経済産業省の情報セキュリティガバナンス構想」

①通常総会参加報告(福田)

②「パーソナル情報研究会報告書ー個人と連結可能な情報の保護と利用のためにー」 について(続き～討論) (船津)

(3)第220回 3月度月例会 3月28日(土) 15:00～17:00(参加:11名)

内容:①中小企業向けSaaS活用基盤整備事業について(溝田)

②セキュリティ技術トピック(その2)ーXSSについて(福田)

(4)第221回 4月度月例会 4月25日(土) 13:00～17:00(参加:12名)

内容:ビデオ視聴 通常総会記念講演

①クレジット産業向け“PCI DSS”と

ISMS ユーザーズガイドについて(中尾)

②セキュリティ技術トピック(その3) (福田)

(5)第222回 5月度月例会 5月23日(土) 13:00～17:00(参加:9名)

会場:西南学院大学 西南コミュニティセンター2階プロジェクトルーム

内容:ビデオ視聴 「ビジネス・プロセス・マネジメント(BPM)入門」

①経済産業省「情報セキュリティ関連法令の要求事項(案)」の紹介(船津)

②セキュリティ技術トピック(その4) (福田)

(6)第223回 6月度月例会 6月28日(土) 13:00～17:00(参加:12名)

内容:ビデオ視聴 「金融業務における情報セキュリティと暗号技術

ー暗号アルゴリズムの世代交代問題を中心にー」

①参加イベント報告(船津)

②セキュリティ技術トピック(その4～5) (福田)

(7)第224回 7月度月例会 7月26日(土) 13:00～17:00(参加:10名)

内容:ビデオ視聴

第146回月例研究会(2009年5月25日開催)

「高度情報化社会を見据えた情報システム・ソフトウェアの信頼性向上に向けた取組み」

- ①ITマネージメント・サポート共同組合について(中溝)
- ②システム監査学会九州地区システム監査研究会 特別大会の企画
個人情報保護専門監査人部会報告
個人情報保護経済産業分野のガイドライン意見募集(船津)

(8)第225回 8月度月例会 8月23日(土) 15:00～17:00(参加:7名)

内容:セキュリティ技術トピック(その6)
～DNSキャッシュポイズニング(福田)

(9)第226回10月度月例会 9月20日(土) 13:00～17:00(参加:10名)

内容:ビデオ視聴 第148回月例研究会
「金融機関におけるプロジェクト監査への取り組み事例」
三菱東京UFJ銀行 監査部業務監査室 上席調査役 金田雅子氏
①システム監査学会特別大会の報告(船津)
②大分合同セミナーの開催について(藤平)
③第30回システム監査講演会報告(福田)

(10)第227回11月度月例会 11月21日(土) 13:00～17:00(参加:10名)

内容:ビデオ視聴 第149回月例研究会(2009/8/31開催)
「内部統制報告制度におけるIT統制の評価・監査を終えて
～IT統制の1年目の総括と、2年目に向けた経営者、そして外部監査人に向けての提言～」
①大分合同セミナーの開催報告(藤平)
②西日本支部合同研究会参加報告

(11)第229回 平成21年度九州支部総会(兼、12月度月例会)(参加10名)

日時:平成20年12月12日(土) 14:00～17:00
会場:福岡市NPO・ボランティア交流センター セミナールーム
内容:記念講演
演題:「地域金融機関の情報システム、現下の課題を巡る～プロジェクト管理/外部委託/共同化～」
講師:日本銀行金融機構局 企画役 大石正人氏
九州支部総会
①平成21年度事業報告 ②平成22年度事業計画
③平成22年度役員改選

4. 主催、共催イベント

(1)システム監査学会九州地区システム監査研究会特別大会

日程:2009年9月19日(土) 13:00～17:10
会場:西南学院大学 コミュニケーションセンター・大ホール
大会テーマ:「地域企業、中小企業とシステム監査」
○基調講演:13:05～14:00
講演内容:「中小企業と事業継続」
講演者: 森宮 康 明治大学商学部教授システム監査学会会長
○特別講演1:14:00～14:55
講演内容:「リスクマネジメントシステムとしてのJISQ15001」
講演者: 船津 宏 オフィス船津代表 個人情報保護専門監査人
○特別講演2:15:10～16:05
講演内容:「中小企業のためのシステム監査と継続的改善アプローチ」
講演者: 荒添 美穂 (有)インテリジェントパーク代表取締役
○特別講演3:16:05～17:10
講演内容:「小規模企業のインターネット・セキュリティ」
講演者: 福田 馨 九州産業大学 経営学部教授

(2)大分合同セミナー

日 時：平成21年11月7日(土) 13:00～17:40

会 場：大分市 アイネス

主 催：中小企業診断協会大分県支部、IT C大分
日本システム監査人協会、システム監査学会
特定非営利活動法人 大分IT経営推進センター

後 援：特定非営利活動法人 ITコーディネータ協会

内 容：①「障害者授産施設の工賃アップに向けて」

(社)中小企業診断協会 大分県支部 吉松 研一 氏

②「プロが伝える日本経済新聞の読み方・活用の仕方」

石松 茂 氏

③「システム監査を巡る動向と事例」

システム監査人協会 九州支部長 福田 啓二 氏

5. メーリングリスト

平成21年(平成20年12月～平成21年11月末)262通

(前年 457 前々年 400通)

月例会案内および出欠連絡、各種公表(システム監査関連)情報、
セミナー情報など。

第2部 会計報告及び会計監査報告

1. 平成21年度 特定非営利活動に係る事業会計 財産目録

平成21年12月31日現在

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

(単位：円)

第8期

科目・摘要	金 額			
I 資産の部				
1 流動資産				
現預金				
・本部現預金				
三井住友銀行	758,781			
みずほ銀行(八重洲口)	838,811			
三菱東京UFJ銀行(日本橋)	1,437,492			
イーバンク銀行	1,102,966			
郵便振替口座	1,022,170			
郵便普通預金	1,043			
小口現金	83,642			
・支部現金預金				
北海道支部	257,176			
東北支部	117,185			
北信越支部	175,225			
中部支部	592,911			
近畿支部	407,018			
中・四国支部	281,306			
九州支部	157,235	7,278,662		
未収入金(延べ148名分の会費等)		1,484,000		
流動資産合計			8,762,662	
2 固定資産				
器具備品				
シュレッダー1台	34,614			
パソコン1台	9,923			
プロジェクター 4台	71,169			
サーバー1台	202,678	318,384		
ソフトウェア				
新会員管理システム 一式	735,000	735,000		
敷金 (共同ビル)		1,652,480		
固定資産合計			2,705,864	
資産合計				11,468,526
II 負債の部				
1 流動負債				
預り金 (報酬等に係る源泉徴収税)		242,719		
前受金 (翌年以降分の会費)		60,000		
流動負債合計			302,719	
負債合計				302,719
III 差引 期末正味財産合計額				11,165,807

平成21年度特定非営利活動に係る事業会計 貸借対照表

平成21年12月31日現在

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

第8期

(単位：円)

資産の部			負債の部		
科 目	金 額		科 目	金 額	
流動資産			流動負債		
現 金 預 金	7,278,662		預 り 金	242,719	
未 収 入 金	1,484,000		前 受 金	60,000	
流動資産合計		8,762,662			
固定資産			流動負債合計		302,719
器 具 備 品	318,384		正味財産の部		
ソフトウェア	735,000		前期繰越正味財産	14,982,183	
敷 金	1,652,480		当期正味財産減少額	3,816,376	
固定資産合計		2,705,864	正味財産合計		11,165,807
資産合計		11,468,526	負債及び正味財産合計		11,468,526

計算書類に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却

器具備品は定率法、ソフトウェアは定額法により、帳簿価額を直接減額している。

(2) 資金の範囲

資金の範囲は、現金と流動性預金としている。前期末及び当期末残高は、下記2に記載した通りである。

(3) 消費税に関する会計処理方法

税抜方式によっている。なお、控除仕入税額は、消費税法第60条第4項により特定収入に係る課税仕入れ等の税額のみを控除している。

2. 次期繰越収支差額の内容

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	11,691,568	7,278,662
合 計 (イ)	11,691,568	7,278,662
固定性預金	0	0
合 計 (ロ)	0	0
次期繰越収支差額 (イ) - (ロ)	11,691,568	7,278,662

3. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次の通りである。

科 目	前期末残高	当期末残高	当期末残高
器具備品	2,567,365	2,248,981	318,384
ソフトウェア	1,617,000	882,000	735,000
合 計	4,184,365	3,130,981	1,053,384

平成21年度 特定非営利活動に係る事業会計 収支計算書

平成21年1月1日から平成21年12月31日まで

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

第8期

(単位:円)

科 目	予 算 (細 目)		実 績 (細 目)		差 引 (実績-予算)
I 収入の部					
1 入会金・会費収入	10,580,000		10,152,000		△ 428,000
入会金収入		80,000		128,000	48,000
会費収入		10,500,000		10,024,000	△ 476,000
2 事業収入	15,420,500		11,679,184		△ 3,741,316
普及・啓発、広報事業		0		0	0
研究・研修事業		12,020,500		5,452,084	△ 6,568,416
認定事業		3,400,000		6,227,100	2,827,100
3 寄付金収入	0		0		0
4 その他収入	1,430,000		2,491,167		1,061,167
支部収入		1,400,000		2,264,799	864,799
雑収入		30,000		226,368	196,368
当期収入合計(A)	27,430,500		24,322,351		△ 3,108,149
II 支出の部					
1 事業費	22,198,400		13,021,547		△ 9,176,853
普及・啓発、広報事業費		5,880,000		4,431,319	△ 1,448,681
研究・研修事業費		12,318,400		4,758,141	△ 7,560,259
認定事業費		4,000,000		3,832,087	△ 167,913
2 管理費	12,864,000		14,599,438		1,735,438
通信費		210,000		223,193	13,193
旅費交通費		1,200,000		1,125,858	△ 74,142
消耗品費		400,000		174,465	△ 225,535
会議費		600,000		613,502	13,502
事務局手当		4,500,000		4,602,745	102,745
事務所運営費		1,200,000		1,138,616	1,507,401
会計業務委託費		504,000		504,000	0
ハード・ソフト費用		950,000		657,754	△ 292,246
支部運営費		3,000,000		3,577,833	577,833
(支部助成金)		(1,300,000)		(1,384,000)	(84,000)
雑費		300,000		412,687	112,687
3 予備費	100,000		0		△ 100,000
4 減価償却費	600,000		517,742		△ 82,258
5 租税公課	0		0		0
当期支出合計(B)	35,762,400		28,138,727		△ 7,623,673
当期収支差額(A)-(B)	△ 8,331,900		△ 3,816,376		4,515,524
前期繰越収支差額(C)	14,982,183		14,982,183		0
当期繰越収支差額(A)-(B)+(C)	6,650,283		11,165,807		4,515,524

*実績の入会金・会費収入には、未収入金 1,484,000 円を含む。

*実績の支部運営費は 3,577,833 円のうち 1,384,000 円は支部助成金から支出している。

2. 平成20年度 監査報告

監査報告書

1. 特定非営利活動法人日本システム監査人協会における平成21年度（平成21年1月1日から平成21年12月31日）の事業予定・実績表、貸借対照表並びに財産目録は、関係諸帳簿、その他の関係書類を監査したところ、いずれも適正であり、また、公益法人会計基準に準じて正確に作成されたものであることを認めます。
2. 業務遂行に関しては、不正行為または法令もしくは定款に違反する事実はありません。

平成22年1月30日

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

監事 富山 伸 夫 

監事 中尾 宏 

平成22年度 事業計画(案)

1. 本 部

1. 全 般

20周年を経た協会が、今後さらに躍進していくためには、どうすべきか。
組織面、事業面で、従来の活動以外に展開しなければならないことは何か。
高い経済成長率は望めない成熟産業社会の中で、システム監査人として、どう処していくべきか。
むずかしい状況は続くが、知恵、力をあわせて道を切り開いていきたいと考える。

- ・「これからの10年」提言活動の集約
- ・公認システム監査人制度の充実とCSAの知名度向上
- ・新規事業開拓の検討

(1)「これからの10年」提言活動の集約

- ・すでに議論されている論点を集約し、報告をまとめる
- ・提言に関連する次期活動の検討

(2)公認システム監査人認定制度の充実とCSAの知名度向上

- ・公認システム監査人等の相互交流と利用活性化のためにCSA(ASA含む)認定取得者を対象にCSAフォーラムを隔月に開催
- ・CSAパンフレットや入札条件への資格明記等による知名度向上
- ・CSA(ASA含む)申請の募集と継続教育セミナーの実施

(3)新規事業開拓の検討

- ・各分会、支部で試行されているセミナー定着の検討
- ・組織横断的チームによる新規事業の検討

2. 教育研修委員会

本年度も前年同様、特別講習認定機関に認定コースを委託により実施する。

(1)論文・プレゼンテーションコース(1日コース)

実施回数予定：東京6回、大阪2回 計8回
実施時期予定：1月～6月 4回、7月～12月 4回
受講者予定：20名

(2)システム監査に関する知識コース(2日コース)

実施回数予定：東京6回、大阪2回 計8回
実施時期予定：1月～6月 4回、7月～12月 4回
受講者予定：20名

(3)情報システムに関する知識コース

実施回数予定：東京1回、大阪1回 計2回
実施時期予定：1月～6月 1回、7月～12月 1回
受講者予定：6名

(4)コース運営管理について

委託機関に対して、講習後の試験が再提出のない様に、評価を行うことを指導する。
保管ファイルの整理を行い、過去の情報をデジタル保管とする。
情報処理試験制度の変更に伴う特別講習認定についての見直しを行う。

3. 会 報

(1)今後の活動計画

- ①電子化に伴い、発行回数の増加を予定しています。
気軽にエッセイやレポートを投稿できる環境を用意して、会員各位が積極的に投稿いただけるよう期待しています。
定例テーマは、従来通り理事会議事、月例研究会、事例研修会、内部統制研修会の報告。支部の活動報告。CSA 活動報告など。
- ②実務に有益な会報を目指し、活動報告と掲載論文の募集を継続します。
- ③電子化した会報の一部は、監査に関心を持つ人への広報誌として情報発信が出来るよう環境整備を行います。
どのような形式であれば円滑な情報交換や意見の吸収ができるか、引き続き試行します。(例：CSA コラム、軽いエッセイ風の記事編集)

(2)2010年会報の特集計画

2010年には、経済低迷期にこそ監査を通じた業務効率の向上を支援するシステム監査人、公認システム監査人の活躍の状況を編集していく見込みです。

(3)会報の発行回数について

2010年は、電子化した会報の発行回数を増やして、月次化を試行したい。
印刷した会報誌の発行は、経費（印刷、送料）の節減を図るため、従来の6回から年2回程度への削減を予定している。

4. 月例研究会

(1)月例研究会の開催回数について

平成21年度は年間8回の研究会を開催した。
平成22年度も年間8回から9回の開催を予定したい。

(2)各回のテーマ／講師について

- ・引き続き会員の興味を引く、鮮度のよいテーマの選定に努めたい。
- ・また、分野については特定分野に偏らずバランスよく選定していきたい。
- ・講師については、今年度も官公庁、諸団体、民間、大学教員及び当協会関係者等のバランスを考慮していきたい。

5. 法人部会

(1)会員の拡大

- ・平成21年は法人正会員が2団体増加した。引き続き、法人正会員の増強に向けた活動を行う。具体的には、システム監査企業台帳登録企業をはじめ、システム監査に係わりの深い企業に対しての入会案内の送付を行う。
- ・法人部会、さらには当協会の活動成果のアピールが会員の増強につながるので、活動の充実を図っていく。

(2)情報セキュリティセミナーの企画・実施

- ・平成21年は、セミナー講師派遣の照会が数件あったが、諸処の理由により、実施には至らなかった。

- ・SAAJの知名度向上にも意義のある活動であり、セミナーの内容の充実、実施事例のアピールなどによって、さらに広報を行い、実績を上げたい。DMおよびWebサイトでの案内に加えて、新たな案内方法を検討していきたい。

(3)会員同士の情報交換

次のようなテーマで、会員企業同士で意見交換を行っていく。

- ・システム監査のビジネス化
- ・システム監査を取り巻く状況；当面は、BCP(事業継続計画)をテーマに情報・意見交換を行っていく。

(4)定例会

- ・月1回開催する。

6. CSA利用推進

(1)今後の活動計画

- ・CSAのプレゼンスと社会的な評価や価値を高め、具体的な実効を挙げることを目標とする。2008年に立ち上げたCSAフォーラムを引き続き隔月開催し、CSAの方々をうまく巻き込んだ実践的な取り組みを推進する。
- ・利用推進担当理事と支援メンバーを主体にした会合も隔月開催し、CSA認定カード、CSAパンフレット、入札条件への資格記載の依頼等に対する普及フォローも今後は強化する。
- ・さらに一昨年大幅リニューアルしたCSA関連サイトの内容充実を図り、ホームページの活性化を目指す。ホームページの活性化により、CSAフォーラムに参加できない方々の相互研鑽と情報共有の場の充実を図りたい。
- ・CSAを広く社会に知ってもらうためにCSAに関係した実務書の出版も複数の筆者を募りながら検討を開始する。
- ・活動は担当理事と支援メンバーによる会合を隔月開催し、またCSAの方々から意見や要望を受ける場や新たな支援メンバーを募集する。
- ・会報、HP、メーリングリスト、月例会等の活用については、会報、HP&メーリングリスト、月例会等の担当理事、CSA認定委員会、SAAJ事務局等との連携を取って進めていく。

(2)今後の課題

- ・昨年度までの活動によりCSA同士の交流は広がったが、CSA利用推進の活動を幅広くSAAJ会員に知ってもらうことと、世の中に対してCSAのプレゼンスを高める実効は、まだ推進途上である。次年度は、隔月開催のCSAフォーラムの充実を図るだけでなく、SAAJ外部に対する活動を再度見直して活性化する施策を展開したい。そのために多くのCSAの方々との連携・協力体制作りを進めたい。
- ・20周年プロジェクトでの検討課題である「システム監査人の役割、要求されるスキルなどの見解のまとめ」について、“CSAフォーラム”における検討テーマとして取り上げ、取り組みを進める。情報処理技術者試験等において期待されるシステム監査人としての役割、スキルを整理した上で、より高度なシステム監査人について進むべき人材像の明確化と具体的な育成策の提示を目指していく。

7. システム監査事例研究会

(1)システム監査サービス

協会ホームページで監査の受診希望企業・団体を募集する。受診企業側で時間外・休日の監査対応が難しくなりつつあるが、メンバーのスキル向上を図るため、積極的に対応する。

(2)システム監査実務・実践セミナー

公認システム監査人制度の教育制度の一環として、昨年同様システム監査実務セミナー4日間コースを2回開催したい。監査サービス実施結果に基づき新教材の開発を行い、システム監査未経験の会員及び公認システム監査人補にシステム監査実務を経験する機会を提供していきたい。

具体的な開催計画は、以下の通り。

①15回システム監査実務セミナー4日間コース

2010年1月16日(土)、17日(日)、30日(土)、31日(日)

(於：千葉市幕張)

②第16回システム監査実務セミナー4日間コース

9月開催予定(於：千葉市幕張)

(3)システム監査新開発セミナー(仮称)

昨年1回実施した新開発セミナーの教訓を踏まえ、事例の追加収集と教材の充実を図り、3月までに1日コースと半日コースを開発する。

4月以降、各支部を回って出張セミナーを開催するとともに、一般向けの集合セミナー(半日コースまたは1日コース)の開発を計画する。

(4)内部統制セミナー

事例研独自の教材の強みを活かし、本年は企業における内部統制監査に対するニーズを的確に把握し、募集・催行を決定していきたい。

・内部統制セミナー3日間コース(於：御茶ノ水総評会館)開催予定。

(5)システム監査事例研究会からの情報発信

SAAJのホームページ上に、事例研究会の活動状況及び活動実績を広報、宣伝するために、継続的に情報発信を行なうこととしたい。

(6)月例会の活性化

毎月開催している月例会において、既存会員の参加率を高めたり、新入会員の入会を促進する取り組みを強化したい。具体的には、メンバーの知識や経験を共有できるような運営を目指す。

8. 情報セキュリティ監査研究会**(1)活動計画(継続)**

平成21年度には計画した成果まで至ることが出来なかったため、引き続きその延長になる次の検討を進める。

『情報セキュリティ監査のためのリスクの洗出しおよびその分析、監査における監査ツールの利用』の一般化、普及

(2)平成22年度研究会研究項目

①情報セキュリティ監査基準の監査に関する情報・ノウハウの共有

②情報セキュリティ監査基準を利用する「基準ツール」の充実を図る

成果としては、「リスクの洗出しおよびその分析、監査ツールの利用」について一般の方々(=当協会に所属していないなど専門家で無いの方々)を意識した分かりやすい、使いやすい形でまとめることにしたい。

(3)展開方法(案)

リスクの洗出しモデルをツール上に展開する。Wikiサーバにおいた閲覧ツールを継続して利用し、このツール上にリスク要因とそれに関わる対策を情報セキュリティ監査結果を参考にして、

JISQ27001*と関連付けるものとする。リスクの洗い出しとその対応方法を資料化する。

*JISQ27001：情報技術—セキュリティ技術—情報セキュリティマネジメントシステム—要求事項

9. システム監査基準研究会

(1)研究項目

- ① SAAJシステム管理基準体系

(2)研究会項目

1) 各種開発環境・手法における監査のポイント

①「システム管理基準forオフショア」について、パブコメを反映させた最終版を確定させる。

②「Webシステムにおける監査のポイント」（開発・利用）

研究会内のレビュー後、HP上に公開しパブコメを募集する。

③「BCMにおける監査のポイント」

研究会内のレビュー後、HP上に公開しパブコメを募集する。

④「プロジェクトマネジメント監査のポイント」

原案を作成し、研究会内のレビュー後、HP上に公開しパブコメを募集する。

⑤「パッケージ導入における監査のポイント」

原案を作成する。

2) システム監査の視点の整理 (特に有効性)

「目的適合性に関する監査の着眼点」と「投資対効果に関する監査の着眼点」をブレイクダウンし、チェックリスト等の原案を作成する。

3) COBIT4.1とシステム管理基準のマッピング作業の作成

引き続き原案作成する。

以上の成果が揃ったところで、全体をとりまとめた成果物も検討していきたい。

(3)定例研究会

- ・定例研究会は、原則月1回開催する。

10. 個人情報保護監査研究会

システム監査人の活動分野の一つとしてプライバシーマーク審査員として活躍される方が増加しており、またプライバシーマーク審査員として活躍されている方がよりよい審査技術向上のためにSAAJに入会されてこられている。個人情報保護研究会はこれらの会員の方々の研究と実践を推進する活動を目指し、今年度は「個人情報保護監査の実施に関する研究」をテーマに取り組みたい。

II. 北海道支部

1. 定例研究会・勉強会実施

研究会は、テーマを決めて隔月で実施する。基本的に支部員が持ち回りで講師を務める。また、本部より送付される月例会のビデオテープを上映する勉強会を隔月で実施する

2. 講演会の実施

年に1度、外部より講師を招いて講演会を実施、広く一般に公開する。他団体との共催により聴衆を増やし知名度を高めるとともに、広く交流を図る

3. システム監査の実践

北海道でのシステム監査普及サービスを試行する。また北海道でのシステム監査ビジネスの普及

に向けての調査を行う

4. 広 報

支部活動について対外的な広報、および支部員勧誘を行う。

対外的な広報に関しては、協会のホームページの北海道支部のコーナーを充実させる

5. メーリングリストによる連絡

支部メーリングリストにより、支部員間の連絡および情報交換を行う

6. 支部体制

支部長 : 大館広之

副支部長 : 渡部洋子、五十嵐洋介

会計 : 谷口泰正

監事 : 小柳政行

研究会担当 : 小林弘幸、本多鉄兵

ML担当 : 渡部洋子(兼任)

広報担当 : 福西伸康

Ⅲ. 東北支部

1. 月例研究会

- ・メーリングによる参加を考慮した定例会を2ヶ月に1回程度開催する。
- ・毎回、会員による活動事例発表、情報交換及び勉強会を行う。
- ・開催場所は仙台市その他、各県での開催を検討しつつ運営する。
3月6日(土)福島、4月17日(土)仙台、6月26日(土)山形、
8月21日(土)仙台、10月後半仙台(ワークショップ終了後に実施)、
- ・なお、毎年1月に実施してきた定期総会を第9期総会より12月に開催する。第9期総会は、12月18日(土)仙台市内にて開催する。

2. 広報活動

- ・経済産業省推進プロジェクトである「東北IT経営応援隊」、各県のITコーディネータ組織、日本システムアナリスト協会東北支部との連携を図り、当協会東北支部の広報宣伝活動を強化する。
- ・協会ホームページの支部便りを活用し、特に、東北支部地域へのシステム監査に関する情報の発信を行う。

3. 会員増強

- ・公認システム監査人の特別講習受講対象資格保持者から公認システム監査人(補)の資格取得促進を図るため、仙台市での特別認定講習実施に向け活動する。
- ・上記受講を終了し、公認システム監査人(補)の資格取得した者、および情報処理試験(システム監査技術者)合格者などを対象に会員加入を推進する。

4. システム監査普及サービスの実施

- ・今年度は、更に会員がシステム監査を体験できるように、システム監査普及サービス対象企業を募り、事例研究会と共同開催を目指す。

5. ワークショップの開催

- ・ITCみやぎ及び日本システムアナリスト協会東北支部と共催しているワークショップを本年度も10月後半仙台市内にて開催する。

IV. 北信越支部

1. 本年度の目標

支部会員の能力向上と支部の技術基盤向上を目指します。

- ・研究チーム継続によるシステム監査の技術基盤の向上。
- ・本部、他支部との交流による知識、技術力の向上。
- ・プレゼンテーション能力の向上。
- ・インターネットを活用した組織コミュニケーションの向上。

2. 活動計画

- ・3月13日 年度総会(富山)
- ・6月12日 福井県例会
- ・9月予定 西日本支部研究会
- ・10月2日 長野県例会
- ・12月11日 石川県例会

3. 支部役員改正案

支 部 長：宮本茂明(石川)

副支部長：白井正(新潟)、梶川明美(富山)

会 計：坂井敏之(富山)

情報統括：清水尚志(石川)

顧 問：伊藤祐太郎(富山)、森広志(富山)

県部会長：角屋典一(福井)、木村武志(石川)、國谷吉英(富山)、風間一人(新潟)、藤原康弘(長野)

書 記：尾島純子(富山)

監 事：高瀬清春(富山)

V. 中部支部

1. 活動方針

- ・中部支部内会員、およびの継続的な相互研鑽・交流を図る。
- ・中部支部以外の地域や団体との人材交流を積極的に展開していく。

2. 活動体制(敬称略)

支部長 田中 勝弘

副支部長 栗山 孝祐(新任)

副支部長 杉山 浩一(月例会担当)

会計担当 早川 晃由

会計監査 山田 和夫

顧問・監事：若原 達朗

3. 活動内容

(1)例会(奇数月の土曜日)

- (2)合宿(11月又は9月の土日)(西日本合同研究会と同時開催を検討)
- (3)西日本合同研究会(幹事)
- (4)その他
 - ・メーリングリスト等を通じた会員の相互交流、情報提供
 - ・中国との交流

VI. 近畿支部

1. 活動方針

- ・本年度は、2008年度の支部20周年記念行事を契機として、活性化してきた支部活動を更に充実させる。
- ・役員体制を整備し、活動基盤を強固にする。

2. 支部体制(敬称略)

(1)支部役員

支部長：吉田 博一
副支部長：藤野 正純 関西 康一郎
会計担当：片岡 学
入門セミナー担当：三橋 潤
コンプライアンスのシステム監査研究会(仮称)担当：雑賀 努
システム監査法制化研究会(仮称)担当：田淵 隆明
支部サイトWG担当：金子 力造
監 事：福德 泰司

(2)参与

木村 安寿、中谷 正明、安本 哲之助

(3)サポーター

三橋、林、大塚(豊)、雑賀、荒町、金子、田淵、是松、中谷、小宮、寺下、岡谷、鈴木、松井、福德、神尾、広瀬、伊藤、深田、後藤(順不同)などのサポーター各位の協力を得て、支部活動を行います。

3. 定例研究会活動

- ・従来同様、隔月(奇数月の第3金曜日)にて年間6回開催する計画である。
- ・講師の選定等については、当協会会員を中心にリクエストに応じてお願いする。

4. システム監査勉強会

- ・本部定例研究会のビデオによる勉強会で、平成17年度より実施した。
- ・定例研究会の開催されない月(偶数月の第3土曜日)で、年間6回予定。

5. セミナー活動

(1)システム監査実践セミナー

中小企業のシステム監査の模擬監査として、6月開催予定で、実践セミナー担当役員を中心に計画する。

(2)システム監査入門セミナー

昨年に引き続き、半日コースのシステム監査の入門研修を行う。入門セミナー担当役員を中心に計画する。

(3)コンプライアンスのシステム監査研究会(仮称)

20周年+1 公開シンポジウムや西日本支部合同研究会でのコンプライアンス問題について、シス

テム監査学会と合同で開催の予定。コンプライアンスのシステム監査研究会担当役員を中心に計画する。

(4)システム監査法制化研究会(仮称)

システム監査の法制化に向けて、検討を進める。システム監査法制化研究会担当役員を中心に計画する。

6. システム監査普及サービス

- ・システム監査の普及と実践例の蓄積のために、積極的な広報活動と体制整備につとめる。

7. 支部運営体制について

①円滑な支部運営

支部役員の体制を強化し、サポーターと連携して、支部運営を行う。

②支部サイトの活用

支部サイトを活用し、各種活動を支援する。支部サイトWGを作り、検討する。

VII. 中四国支部

1. 活動方針

- ・中四国支部会員の継続的な研鑽と情報交換の場を提供する。
- ・中四国地域で唯一のシステム監査人の団体として、システム監査に関わる窓口組織となるように広報等の知名度向上に努める。

2. 活動計画

(1)月例会の開催(原則月1回)

- ・月例研究会のビデオ視聴
- ・その他、情報交換

(2)他支部、他団体との連携

- ・地域ITコーディネータ組織等とのイベント共催等
- ・西日本合同研究会への参加勧奨

3. 役員体制

支部長：溝下 博

副支部長：福田陽一、福原博明

会 計：清野敏弘

監 事：池田光孝

顧 問：大谷完次

VIII. 九州支部

1. 活動計画

(1)月例会の開催 原則月1回の月例会を継続する。

- ・参加者が発表しやすい企画。
- ・年1～2回程度の外部講師による講演の企画。

システム監査学会九州地区研究会およびISACA福岡支部(設立予定)との連携

(2)他支部、他団体との合同企画・開催。

- ・西日本支部合同研究会への参加
2010年度は中部支部主催で開催予定。

- ・福岡ITC推進協議会ははじめ九州各県のITC組織、日本システムアナリスト協会九州支部等の関連団体とのイベント共催の推進する。

(3)関連他団体との連携、情報発信の活発化

- ・関連団体主催のイベントへの後援などを通じ連携を深めるとともに、当協会の紹介などを活発に行う。

(4)メールリングリストによる情報・意見交換の一層の活発化

(5)情報発信、広報活動の活性化

- ・支部の活動計画、実績をホームページを中心に発信、広報に努める。

(6)その他、支部活動整備

- ・支部会員名簿の整備を進める。

2. 役員体制

支部長 : 中溝統明
副支部長: 舩津 宏 荒添美穂
会計 : 居倉圭司
監査 : 松嶋 敦
事務局 : 福田啓二
地区担当: 長崎 平山克己
大分 藤平 実
鹿児島 山下博美
熊本 桐原光洋

平成22年度 予算(案)

平成22年度 特定非営利活動に係る事業会計 事業予算科目案

平成22年1月1日から平成22年12月31日まで

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

(単位:円)

科 目	(細目)		備 考
I 収入の部			
1 入会金・会費収入	10,100,000		
入会金収入		100,000	
会費収入		10,000,000	
2 事業収入	10,557,500		
普及・啓発、広報事業		0	
研究・研修事業		7,827,500	月例会、セミナー、研究会等
システム監査人の認定事業		2,730,000	認定料、登録料、更新料
3 寄付金収入	0		
4 その他収入	1,932,856		
支部収入		1,732,856	支部研修会収入等
雑収入		200,000	受取利息
当期収入合計(A)	22,590,356		
II 支出の部			
1 事業費	12,546,570		
普及・啓発、広報事業費		3,707,000	会報、パンフ、ホームページ等
研究・研修事業費		6,839,570	各研究会、セミナー講師料等
システム監査人の認定事業費		2,000,000	認定員手当、認定票作成費
2 管理費	12,258,020		
通信費		220,000	
旅費交通費		800,000	
消耗品費		170,000	
会議費		600,000	総会費、理事会費
事務局手当		3,100,000	
事務所運営費		2,800,000	事務所賃貸料
会計業務委託費		504,000	
ハード・ソフト費用		457,520	
支部運営費		3,206,500	支部研修会費用等
(支部助成金)		(1,323,000)	
雑費		400,000	
3 予備費	0		
4 減価償却費	400,000		
5 租税公課	0		
当期支出合計(B)	25,204,590		
当期支出差額(A)-(B)	△ 2,614,234		
前期繰越収支差額(C)	11,165,807		
当期繰越収支差額(A)-(B)+(C)	8,551,573		

平成22年度 役員選任

第9期 役員候補者名簿

支部／地域	協会役員	氏 名	勤務先名	
関東	理事	安部 晃生	中央三井信託銀行(株)	新任
関東	理事	岩崎 昭一	データリンクス(株)	
関東	理事	榎本 吉伸	Y E システムコンサルティング事務所	
関東	理事	遠藤 誠	あずさ監査法人 IT 監査部	
関東	理事	大石 正人	日本銀行	
関東	理事	小野 修一	(有)ビジネス情報コンサルティング	
関東	理事	片岡 学	あらた監査法人	
関東	理事	金子 長男	金子システム監査	
関東	理事	川端 純一	敦賀市役所	新任
関東	理事	木村 裕一	(財)日本情報処理開発協会	
関東	理事	斎藤 茂雄	(株)日立情報システムズ	
関東	理事	桜井由美子	E y e B e y o n d	
関東	理事	佐竹 博利	(株)日本システムディベロップメント	
関東	理事	島田 裕次	東京ガス(株)監査部	
関東	理事	清水 恵子	中央青山監査法人	新任
関東	理事	鈴木 信夫	(有)エイビーシー	
関東	理事	鈴木 実	鈴木アイ・ティ・シー	
関東	理事	成 楽秀	サンノックシステム株式会社	
関東	理事	竹下 和孝	んじゃろ監査事務所	
関東	理事	力 利則	日本電気(株)	
関東	理事	仲 厚吉	セコムトラストネット(株)	
関東	理事	中山 孝明	国家公務員	
関東	理事	沼野 伸生	沼野 Associates	
関東	理事	馬場 孝悦	公認システム監査人	
関東	理事	原 純江	日本ビジネスコンピューター(株)	
関東	理事	松枝 憲司	(株)ビジネスソリューション	
関東	理事	三谷慶一郎	(株)NTT データ経営研究所	
関東	理事	三輪 智哉	(株)網屋	新任
関東	理事	山田 隆	日本規格総合研究所	
北海道	理事	大館 広之	NTT コムウェア北海道株式会社	
東北	理事	高橋 典子	(株)富士通東北システム	
北信越	理事	宮本 茂明	(株)富士通北陸システムズ	新任
中部	理事	栗山 孝祐	(株)富士通中部システムズ	新任
中部	理事	田中 勝弘	(株)シーティーアイ	
近畿	理事	関西康一郎	公認システム監査人	
近畿	理事	藤野 正純	公認会計士藤野正純事務所	
近畿	理事	吉田 博一	大阪府	
中四国	理事	溝下 博	あずさ監査法人	
九州	理事	中溝 統明	富士通エフサス	新任
関東	監事	富山 伸夫	富山システム監査事務所	
関東	監事	中尾 宏	東京情報大学 総合情報学部	

「システム監査これからの10年」10の提言への対応状況と今後の取組み計画

●平成21年(2009年)の活動状況

- (1) 10の提言それぞれに設定した、対応の主担当理事を中心に、活動を行った。
- (2) 主担当を中心に、それぞれの提言への対応に必要な情報収集を行った。
- (3) 主担当を中心に、それぞれの提言への対応の論点整理、考え方、対応策のまとめを行った。
- (4) その中で、具体的な取組みに移せるものについては、順次、実施した。
- (5) 月1回程度、主担当理事で集まって(対応チーム)、情報・意見交換を行った。
- (6) それぞれの提言および対応検討の論点、考え方に対して、外部有識者の意見を聞くことを目的に、以下の場をもった。
 - ・情報セキュリティ監査協会(JASA)顧問、工学院大学教授大木栄二郎先生との意見交換の場(5月)
 - ・経済産業省商務情報政策局情報セキュリティ対策室三角育生室長、井土和志課長補佐との意見交換の場(7月)
- (7) 3つの提言(項番2、4、5)について、対応検討の論点、考え方に対して、会員の皆さんの意見を聞くことを目的に、討議会を開催した(12月)。
- (8) (5)(6)で出された意見を、それぞれの提言についての対応検討の論点、考え方に反映させた。

●平成22年(2010年)活動計画

- ・多くの提言が容易に結論が出せるものではないが、平成21年の整理・まとめを受けて、平成22年はより具体的な検討を行っていく。
- ・特に、会員の皆さんとの討議会は非常に有意義であり、平成22年度も何回か開催したいと考えている。
- ・実施に移せるものについては、順次、実施していく。具体的な施策に展開できたものについては、会報やWebサイトなどを利用して公表していく。

右の報告内容は、主担当理事を中心に進めてきた、それぞれの提言についての対応状況の報告と、今後の取組み計画である。

提言	取組み状況	今後の取組み計画
1. システム管理者および若い世代に目を向けた取組みの推進	①会報とタイアップして、新しい分野でのシステム監査の状況を調査した。また広く会員にも参加者を募り、監査を業務としない人との交流のあり方を検討した。 ②インパクトのある情報公開の手段に最新技術を応用するため、動画、Twitter、Blogなどを情報発信源として利用できないか調査した。 ③動画でSAAJの活動を紹介する方法の検証を行った(ツール、サービス)。	①会報とタイアップして、新しい分野でのシステム監査の状況を調査した。また広く会員にも参加者を募り、監査を業務としない人との交流のあり方を検討した。 ②インパクトのある情報公開の手段に最新技術を応用するため、動画、Twitter、Blogなどを情報発信源として利用できないか調査した。 ③動画でSAAJの活動を紹介する方法の検証を行った(ツール、サービス)。
2. 経営マネジメントシステムの枠組みへのシステム監査の組み込み	①「システム監査という言葉だけでは今後は経営者を引きつけられない。経営の一要素としてシステム監査を位置づける必要がある。そのためには何を行う必要があるのか」という問題意識の下、チームメンバーでのディスカッションを行った。 ②中四国支部月例会(2009.5.16)、月例研究会(2009.11.9)の場においても、システム監査人がいかにして経営に接近するか、というテーマについて問題提起を行った。 ③提言に関する討議会(2009.12.1)において、会員参加によるディスカッションを実施した。	・2010年も、引き続き基礎的検討を進める。 ・特に、12月に実施したようなオープンな場での会員間のディスカッションは、様々な立場からの意見を得るためにとても有意義だと考える。継続して実施していきたい。 ・また、何らかの形で企業経営者へのアピールや意見交換を行うことも検討したい。
3. システム監査と情報セキュリティ監査の関連・違いの明確化	①Q&A形式の資料にまとめ、チームメンバーで何回か、検討を行った。 ②外部有識者との意見交換の場にも提示し、外部有識者の目での貴重なご意見を伺った。 ③ある程度、内容が固まったと考え、理事の皆さんに公表し、意見を伺った。	・理事の皆さんの意見を反映させた後、Webサイトに公表する予定である。
4. システム監査の法制化、制度化のあり方の検討	①システム監査の今後の機能とあり方を検討した。 ②上記①に基づき、現状制度としてどのようなものがあるかを想定した。 ③上記②の阻害要因等が何かを分析した。 ④上記③を排除する方策を検討し、制度化推進策を「提言」案としてまとめた。 ⑤上記④の「提言」案について、会員有志によるディカッションを実施した。	・「提言」を協会内に発表する。 ・「提言」を協会外に公表する。 ・他の提言と合わせて、所管当局へ説明し、提言案の実現性を打診する。 ・「提言」について、関係団体とのディスカッションを実施し、実現性の方向を探る。

提言	取組み状況	今後の取組み計画
5. 保証型監査についての見解の明確化と公表	2009年は、基礎的検討として主に以下を実施した。 ①経済産業省「情報セキュリティ監査報告書」(2003.3.26)等を基に、情報セキュリティ監査における「保証型監査」「助言型監査」の定義確認、検討。 ②経済産業省「システム監査基準」(2004.10.8)により、システム監査基準においても「保証」「助言」の考え方が導入されていることを確認。 ③JASAによる「保証型監査」「助言型監査」の研究成果を公表資料で確認、検討。また、JASAの保証型監査促進プロジェクトをリードされている工学院大学大木先生とのディスカッションも行った。 ④金融庁、公認会計士協会における「保証業務」に関する各種公表資料を入手、検討。	・2010年は引き続き基礎的検討を進めるが、2009年からの基礎的検討の結果を踏まえ、システム監査における「保証型」「助言型」の考え方の叩き台を纏めたい。 ・叩き台の取り纏めに当たっては、会計監査の分野で蓄積された監査の知見を十分参考にするが、会計監査とシステム監査との違い(情報システムの特性など)にも十分注意を払っていく。 ・システム監査のこれからの10年を見据えたテーマであり、拙速な検討でなく、引続きじっくり検討を進める。(2、3年の中期検討計画の繰返しで、都度途中経過を公表しながら成果を積み上げていく。)
6. システム監査基準を有効活用するための情報提供機能の強化	①「システム管理基準 for オフショア開発」について、協会HP上で会員および一般よりパブリックコメントを募集した。	・2010年は「システム管理基準 for Webシステム開発(仮称)」「システム管理基準 for BCM」「システム管理基準 for PM」等をシステム監査基準研究会内のレビュー&修正後、当協会Webサイト上に公開する計画である。
7. システム管理基準のシステム現場への普及	①J-SOX対応以外において、システム管理基準を普及させるために、COBIT 4.1とシステム管理基準のマッピング作業を行っている。 ②その他、システム監査基準研究会のこれまでの検討の中で、次のような意見が出ている。 システム管理基準を活用した事例の提供 他の団体(令:IT経営協議会、ベンダー/ユーザ団体等)への働きかけも重要 ③他団体との連携の一つとして、日本セキュリティ監査協会の要職を務められている方との意見交換を、2009年5月に実施した。	・COBIT 4.1とシステム管理基準のマッピングを完成させる。 ・その他、システム監査基準研究会内で検討を深めたうえで行動に繋げたい。
8. システム監査の視点の整理、特に有効性	①各団体等で出されている見解を収集・整理した。②「有効性」については、「投資対効果」と「目的達成度」の両面から評価する方式で検討を進めている。	・「有効性」の評価について、システム監査基準研究会として検討を進めていく。

提言	取組み状況	今後の取組み計画
9. システム監査人の人材像の明確化と育成策の提示	①継続してきた取組みは次の2点である。 1. システム監査人の役割、要求されるスキル、スキル育成等の検討と見解をまとめる。 2. 公認システム監査人(CSA)制度とCSA認定取得者の価値を高めるCSA利用推進の目的・位置づけの明確化と具体的な推進活動。 ②2009年は特に2. CSA利用推進活動に注力し、CSA認定取得者の相互研鑽、情報共有、フェイスtoフェイスの意見交換の場として、“CSAフォーラム”を2ヶ月に1回(計5回)開催した。CSA(ASA含む)フォーラム事前登録者約百数十名に案内を出し、毎回20名強の出席者が集まり情報共有、意見交換を行った。 ・1/27 第3回「CSA実践報告&基準研紹介」(松枝憲司氏報告) ・3/5 第4回「内部監査から見たシステム監査」(島田祐次氏報告) ・6/1 第5回「組織人を幸せにするマネジメントシステムを目指して」(桜井由美子氏報告) ・7/23 第6回「システム監査の実践を通してのCIOの役割・課題への貢献」(小野修一氏報告) ・9/24 第7回「オフショア開発成功のためのシステム監査」(山田隆氏報告) ・12/2 第8回「今までの振り返りと今後の予定」(CSAフォーラム事務局)	・2010年は、1. システム監査人の役割、要求されるスキルなどのまとめを、“CSAフォーラム”の検討テーマとして取り上げ、取組みを進める。また、情報処理試験等において期待されるシステム監査人としての役割、スキルを整理した上で、関連団体とも連携を図り、より高度なシステム監査人の進むべき人材像の明確化と具体的な育成策の提示を目指していく。 ・CSAフォーラムは引続き2ヶ月に一度ペースで開催していく。徐々に意見交換やディスカッションの時間を増やし、相互啓発、研鑽の向上を図る。さらに具体的にCSA制度とCSA認定取得者の価値を高めるための議論、提言、成功事例の紹介等の活動を行っていく。併せてCSA同士の相互交流の場を通して、監査人が連携を図りやすい体制作りを進める。
10. 当協会と関連官庁・機関・団体との連携強化	①涉外担当理事を中心に、場面をとらえて、積極的な交流を図り、連携チャンネルを深めることに努めている。②当協会が主催するイベントへの招待、他団体からの招待への対応など、可能な限り連携の場を作っていく。	・今後、各提言に関する対応検討の状況と必要に応じ、関係諸団体との意見交換などを行っていく。

近畿支部 システム監査サービス活動報告**No.283 松井 秀雄****対象企業：**

- ・大阪に本社をおく製造業
- ・売上規模は約100億円
- ・従業員数は約180名

システム監査の目的：

IT全般統制が有効であるかどうかを監査する

今回の監査サービスの特色：

「保証型監査」へのチャレンジ。
「システム管理基準」や「経営者の言明」や「監査チームの総意」を監査規準として、それらの監査規準に照らして、監査対象企業のIT全般統制が、同社の業種・企業規模などから見て有効といえるレベルにあると保証できた。

経営者の言明内容：

有効性の監査であるため、経営者が何を有効とするかの判断規準が必要であるが、同社には経営者の言明文書がなかったので、インタビューを通じて次の言明を特定した。

「当社の情報システムに対して、定期的なソフトウェアの更新や大規模な基幹業務ソフトの更新のためのコストを除き、追加的なコストを掛けることは望まない。コンプライアンスや安全性も重要であるが、コストを抑えた効率性の追求を重視する。ただし、技術情報や顧客情報や経理情報のような機密情報が漏洩することは避けねばならない。」

監査人チーム：（敬称略）

リーダー：藤野正純

往査チーム：小宮弘信、金子力造、中村 謙一、
田崎竹雄、後藤知久、松井秀雄

後方支援チーム：関西康一郎、松原敬二、

広瀬克之、石田正幸、荒町弘

アドバイザー：中谷正明、木村安寿

活動時期と頻度：2009年8月～2009年12月

活動内容：

- ・8月 監査先企業の経営者の言明ヒヤリング
- ・8月～10月 監査チーム内で作戦会議：3回
- ・10月 往査実施：2時間単位のヒヤリングを13回実施。

ヒヤリング対象部署：経理課（1人単位に2回）、購買課（1人単位に1回）、営業監理課（1人単位に3回）、技術部（1人単位に4回）、情報システム課（1人単位に3回）

（ヒヤリング対象者には各部門の責任者を含んでいる）

- ・11月～12月 監査報告書作成会議：5回
（夜に2～3時間、時には深夜に及ぶ事も）
報告書作成には5回の会議以外に、往査メンバーが担当部分を持ち帰って執筆する作業も行った。
- ・12月 監査結果報告会

監査報告論旨：

- ・監査対象企業本社の情報処理システムのITに係る全般統制は、「システム管理基準」、「セキュリティ管理基準」、「システム管理基準 追補版」及び「経営者の言明」に照らして、下記の指摘事項を除き有効であると認めます。
- ・指摘事項
 - ①セキュリティポリシーの明確化と継続教育
 - ②情報システム部門の管理体制
 - ③パスワードの運用管理
 - ④アクセス管理の運用状況
 - ⑤開発業務と委託先管理
 - ⑥BCP（事業継続計画）

監査報告結果：

監査先企業のIT担当役員に監査報告を理解いただき、指摘事項の全てについて早期改善に向けて取り組む方針を打ち出された。

所感：

・今回の監査サービスは、チーム・メンバーが今まであまり経験していない「保証型監査」へのチャレンジとして取り組んだため、当初は「何をどこまで保証するのか」といった議論があり、上記「今回の監査サービスの特色」で述べた内容に収束するのに議論を要した。

・監査対象企業側で監査の受け入れ体制を整備して頂くと共に、往査対象部署でも誠実な対応

をして頂いたお陰で、往査活動や監査報告会を円滑に進める事ができ、指摘事項も受け入れられたものと思う。

**第116回定例研究会
〈ISACA 大阪支部との合同講演会〉
実施報告**

No.961 寺下厚二

日 時：2009年12月19日(土)

15:10～17:00 合同講演

会 場：常翔学園大阪センター 302教室

テーマ：国際財務報告基準 (IFRS) が情報システムに与える影響について

講演者：久保 陽子氏

(監査法人トーマツ IFRSサービスチーム シニアマネジャー)

出席者：77名

講演概要

(1)IFRSの特徴ということで、IFRSの発展経緯の中で世界での国の大半がIFRSの適用を要求もしくは容認する国であること。米国や日本の規則ベースの会計基準に比較し、IFRSが原則主義であり、規定されていることは少ない代わりに各企業で決める必要があること。日本では過去の財務諸表の遡及修正は通常ないが、IFRSでは遡及修正があること。コンバージェンスとアドプションの違いについて、コンバージェンスは自国の会計基準をIFRSに近づけていくやり方であり、アドプションはIFRSをそのまま適用するやり方であること。金融庁企業会計審議会中間報告では、2015年または2016年から強制適用を検討しており、この決定を2012年に決定するという。当初は並行期間として、IFRS基準と従来の日本基準の両方の財務諸表の作成が必要であることなどの説明をしていただきました。

(2)情報システムへの影響ということで、親子会社の決算日の違いがある場合に、実務上不可能な場合を除いて原則統一する必要があるため、決算日を統一する方が効率がよいこと。収益認識基準が変更になるため、出荷時点ではなく、検収時点での売上が原則となることや、百貨店や商社においては売上額が大きく変わる

可能性があること。有形固定資産の償却においても減損損失の計上に伴い、簿価を二重に把握しておく必要があること。研究開発費については従来のように全てを費用化することはできず資産計上する必要があることなどの説明をしていただきました。

(3)情報システムの対応として、親子会社の場合、個々の会社の決算をIFRSで行う方法と、個々の会社については日本基準の決算を行い、連結後にIFRS基準に変更する方法があること。会計元帳の持ち方については、仕訳伝票からIFRS基準と日本基準の二つの元帳を作成する方法と、通常は日本基準の元帳を作成しておき、期末に一括して調整仕訳を起こすことでIFRS用元帳を作成する方法があることなどを説明していただきました。

(4)導入のアプローチとして、導入スケジュールの考え方、ロードマップ、プロジェクト体制の作り方、さらにIFRS導入を契機としてより効率的な経営を目指すことも重要というようなことを説明していただきました。業務システムの見直しが入る場合にはテスト期間等も勘案すると前倒しのスケジュールが必要であることを提示していただきました。

感想

これから具体的にIFRSにどう対応していくかを考える上で体制の作り方、スケジュールの目安、目標の設定など有益であったと思われます。

SAAJ 近畿支部 第117回定例研究会

日 時：2009年1月15日(金)19:15～20:30

場 所：大阪大学中之島センター 2階 講義室1

テーマ：「コンプライアンスのシステム監査」

講 師：松田 貴典 氏 当支部会員

大阪成蹊大学 教授

大阪市立大学 特任教授

参加者数：50名

1. 講義概要

1-1 法的脆弱性社会の時代

・脆弱性とは

脆弱性とは

「情報資産や人員の管理方法に由来する弱点 (ISMS)」

「ICTの本質的な特性に起因して情報システムの構築に伴い、その効用に比して不可避免的に発生・拡大化して潜在する欠陥」

である。

脆弱性は、また「効用」との対局面も持ち合わせている。例えば、USBメモリは情報を手軽に持ち運べるポータビリティという効用がある反面、紛失による大量の情報漏洩の可能性という「脆弱性」が存在する。

このような「脆弱性」に対して、コントロールが弱いと「脆弱性」に起因する「脅威」が現実化する。

ICTに関する「脆弱性」を無くす究極的な方法は「情報システムを全て無くす」ことであるが、現代では無理な事である。

・法的脆弱性とは

ICTの高度化にともない、さまざまな「法的脆弱性」も生まれてきている。例えば、サイバーショッピングシステムの拡大は、仮想社会（サイバーワールド）のなかで、犯罪や詐欺などが発生し、現実社会（リアルワールド）で被害に気付くのである。この時間的ディレイが問題となる。

また、紙から電磁的記録による大量複製社会の形成による知的財産権の問題や文書性の問題などである。

・法的脆弱性への対応

法的脆弱性に対しては2つの側面から「法的セキュリティ」の対応が求められる。

(1)自らが法律に抵触しない。

遵法（コンプライアンス）の側面

(2)外部からの違法な侵害から守る。

法的侵害からの保護の側面

1-2 コンプライアンスのシステム監査とシステム監査視点

・情報セキュリティガバナンス

経済産業省が「情報セキュリティガバナンス導入のガイダンス」を発表した。

情報セキュリティも企業トップの責任として、企業ぐるみで取り組む必要がある。

・システム監査との関わり

システム監査をはじめとする、情報システムに対する監査は情報セキュリティガバナンスの確立に向けて大きく寄与する時代になっ

てきている。

システム監査により法的セキュリティへの合理的な保証ができるなら確実に企業価値の向上とレピュテーションの向上を実現する重大な役割を担っていると言える。

・コンプライアンスとシステム監査基準、システム管理基準

現状、システム監査基準およびシステム管理基準には、コンプライアンスに関する記述が非常に少ない。

システム管理基準の「情報戦略・コンプライアンス」の5項目が規程されている。

このようなことから、企業が企業自身の監査基準を、以下の3点の視点から作成すべきであろう。

○企業等の全体に及ぶ内部統制の整備と情報資産の保護を対象とした全社的視点での情報セキュリティ視点

○組織における固有業務で発生するコンプライアンス視点

○企業等の対外的事業活動を対象にしたコンプライアンス視点

1-3 システム監査事例

・全社的視点でのコンプライアンス監査観点事例で、個人情報の保護の監査がある。

○企業等の機密情報が適正に管理されているか？

○個人情報の取扱者は限定されているか？

○機密情報には技術的保護手段がとられているか？

○不正なアクセスがあった場合には、すぐに発見できる仕組みが講じられているか？

等。

このような事が実施できていない場合、「不正競争防止法」で情報が保護されない可能性がでてくる。

実際にも判例で秘密管理が否定された事例も存在する。

・情報システム開発でのコンプライアンス監査観点事例

○ソフトウェア開発を外部委託するとき、開発委託契約は適正に実施されているか？

○ソフトウェア等の所有権（主に著作権）や自由改訂（同一性保持権）について、明確になっているか。

○現場で活用するPCに導入されているソフトウェアライセンス契約は適正に実施されているか？

等。

多くは著作権法に関するコンプライアンス違反の無いように業務活動を行うためのシステム監査観点である。

- ・ビジネスプロセスでのコンプライアンス監査観点での事例としてサイバーショッピングがある。

○Web表示に特定商取引法に則った表示がなされているか？

○Web表示に著作権侵害となる他人の著作物を無断掲載していないか？

○契約の成立は確認データの受信時になっているか？

等。

○その他、景品表示法、特定商取引法、薬事法などの法違反を発生させないように業務を行うための監査観点である。

所 感

研究会会場は満席となり、このテーマに対する関心が高いということを感じた。

実際の判例や条文からの事例を多く盛り込まれた講演であったために、コンプライアンス視点からの監査の重要性というものがわかりやすく参加者に伝わったのではないと思う。

残念であったのは、時間が短かったため「もう少し詳細に聞きたい」という感が残った点であった。

また、今回の講演は情報セキュリティが中心であったが、企業活動におけるコンプライアンスは多岐にわたると思うので、各監査人はあらゆる法律に関する情報を仕入れておく必要があるとも感じた。

今後、研究会でさらに追求をしていくと聞いているので、研究会での結果が楽しみである。

平成 22 年度北信越支部総会報告

日 時：2010年3月13日(土)13:30～17:00

会 場：アーバンプレイス富山8階821会議室

平成22年度北信越支部総会を3月に開催しました。北信越支部長として7年間ご尽力いただいた森様に替わり今年度より宮本が支部長を務めることになりました。支部会員の皆様と共に、システム監査の能力向上と技術基盤向上を目指し、下記テーマに取り組んでいきます。

▷研究チーム継続によるシステム監査技術基盤の向上

システム監査研究会

情報セキュリティ監査研究会

▷本部、他支部との交流による知識、技術力向上

▷プレゼンテーション能力の向上

▷インターネットを活用した組織コミュニケーションの向上

研究報告として白井正様より「IFRSの概要と情報システムに対する影響（その2）」というテーマで報告いただきました。支部総会参加者で昨年の新潟県例会や本部第151回月例研究会の報告をお聞きになっていない方もいることから、白井様にIFRSの概要と情報システムに対する影響について報告いただき、前回報告後の最新情報についても説明いただきました。

また、システム監査研究会と情報セキュリティ監査研究会の経過報告を行いました。

(宮本茂明)

◇システム監査研究会経過報告

経済産業省 IT経営協議会「IT経営ロードマップ 事例6：カブドットコム証券」及び、戦略的プログラムマネジメントオフィス（SPMO）について

No.848 森 広志

(1)IT経営ロードマップ事例6

今回の業種は、金融業のネット証券会社です。従来の証券会社は、1対1の対面営業により強みを発揮していましたが、ネット証券では、インターネットを活用し、投資家が自身のPCを活用しクリックオールで、株式や投資信託を行って頂く仕組みとなっています。

このためネット証券は、金融業でありながら情報処理産業と同様の経営基盤や能力開発が必須であり、ITを駆使して競争を勝ち抜く手段が、CSF（重要成功要因）になると考えます。

CSF実現には、顧客の個人情報を含む重要情報漏洩等に対するセキュリティ確保や、ディザスタ・リカバリー体制を構築し、ミッションクリティカルな情報システムの実現により経営状態を安定化させる必要があります。

この点について、カブドットコム証券では、ISO9001、ISMS、ITIL、ISO10002（苦情対応マネジメントシステム）、などの認証を取得し、

BCPとして、5分間隔のバックアップ体制を構築して、顧客データの信頼性、安全性の確保を行っています。

又、経営指標、顧客満足度、コンプライアンス等の数値情報をHOに開示する見える化とともに社内PDCA体制を構築し、経営効率向上と人事労務制度反映による社員の能力発揮にも役立てていると考えます。

IT経営ロードマップの情報戦略の事例では、情報システムの内製化とコールセンターのインハウス運営を選定し、オンリーワン戦略として強みの発揮を目指しています。この点について、クラウド時代に突入している昨今の社外環境との比較について、参加者の皆さんと議論を深めました。ネット証券分野では、顧客獲得のための差異化が必要であり、かつ、ミッションクリティカルな情報システムの必要性も大きいので、自社開発(含むプライベートクラウド化)が望ましいとの結論に至りました。この点については、本部の年度総会で聴講させて頂いた、東京電機大学の佐々木良一教授の「クラウドコンピューティングのセキュリティ」のクラウド適用領域の解説を参考にさせて頂きました。

(2)戦略的プログラムマネジメントオフィス (SPMO)について(出所:PMI日本支部)

PMOは、組織全体のプロジェクトマネジメントの能力と品質を向上し、それぞれの複数のプロジェクトが円滑に実施されるよう支援することを目的に設置される常設の専門部署ですが、更に、経営戦略や組織計画の実現手段として高めたものをSPMOと言います。

従来のプロジェクトマネジメントは、PMBOK(プロジェクトマネジメント知識体系)の適用に代表されますが、長年の研究により、ITポートフォリオやPMOの成熟度測定方法が開発されてきたため、組織に適用し経営戦略や組織計画の実現手段に役立てる段階となりました。政府や自治体などで推進しているEAIに併用してPMOを設置することが多く、アジアではスリランカ政府やシンガポール政府も同様に普及しており、最近ではPMOを支援する企業も設立されています。PMOは、組織全体のプロジェクトマネジメントの品質向上や人材育成、モニタリング/監査も行うため、システム監査の考えや技術が要求されます。

プロジェクトマネジメントの成功率(当初計画の納期・予算・品質)は、現状で30%以下とされています。IFRSの時代を迎えたことにより、今後の情報システムは、複数の開発保守案件を抱え、情報システム投資リスクも増大すると考えます。このためSPMOによりプロジェクトマネジメントの成功率を高めることで、情報システムの投資効果を改善することができると考えます。

ただ、プロジェクトマネジメント文化の土壌が日本企業では未成熟なため、PMOの成熟度測定と、成熟度に応じたプロジェクトマネジメントのベストプラクティスを選定する等、慎重な導入計画の実施が重要になると思います。

◇情報セキュリティ監査研究会経過報告

今年度研究テーマについて意見交換及び、「クラウドコンピューティング」について

No.1281 宮本 茂明

(1)今年度研究テーマについて

今年度の情報セキュリティ監査研究チーム活動について参加者の皆様と意見交換し、テーマ題材としては、下記の医療情報、クラウドに関するものを中心に進めていくことになりました。例会を中心に勉強会を推進していきます。

- ①医療機関関連の個人情報保護監査に関する勉強会
 - ▷医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第4.1版
 - ▷保健医療福祉分野のプライバシーマーク認定指針
 - ▷医療情報を受託管理する情報処理事業者向けガイドライン
 - ▷ASP・SaaS事業者が医療情報を取り扱う際の安全管理に関するガイドライン
- ②クラウドコンピューティングに関するセキュリティ/ガバナンス勉強会

クラウドコンピューティングとは何かといった概要から始めて技術的要素、利用する上でのセキュリティ、ガバナンスに関する勉強会

- ▷Webアプリケーションのシステム監査
- ▷オープンソース・ソフトウェア(OSS)を利用したシステムに関するシステム監査
- ▷プライベート・クラウドにおけるOSS活用の課題

▷クラウド利用時のリスク評価 等

(2)「クラウドコンピューティングとは何か」

参考文献※をもとにクラウドコンピューティングに関する概要を報告しました。

クラウドコンピューティングは、以下の4つの要素からなっています。

①サービス化

ソフトウェアのサービス化

②ボーダレス

ハードウェアのボーダレス化

③分散

データなどの分散

④集約

保存のための記憶装置や処理のための演算力の集約

クラウドコンピューティングとは、最初から定義や考え方が明確にあってそれが形になってきた技術ではなく、様々な技術動向が結果としてある「集合体」として姿を現したものといます。クラウドコンピューティングは、「現象」であるという捉え方もされています。技術的要素としては、視点によって様々で、例えば以下のよなものがあります。

仮想化、分散コンピューティング、Grid Computing、ユビキタス、スマートフォン、ネットブック、Webアプリ、Ajax、無線LAN、ブロードバンド、Web2.0 等

これらの技術的要素から見ても、クラウドコンピューティングは、ITシステムの一部となってきたており、本当に使えるものとしていくためには、サービス品質、サービスの業務継続性、サービスにおけるデータ保護、コンプライアンス監査等セキュリティ／ガバナンス面の考慮が重要になってきています。

今後研究会では、クラウドコンピューティングのどの分野・対象についての議論であるかを明確にし、そのセキュリティ／ガバナンス面について研究していきたいと思ひます。

《※参考文献》

『クラウド大全』(2009/4/23)

出版社: 日経BP社

『クラウド・コンピューティング

ーウェブ2.0の先にくるものー』(2009/1/13)

西田 宗千佳 (著)、出版社: 朝日新聞出版

SAAJ / JSAG 中部支部 2009年度合同合宿

1. 年度活動報告と来年度計画

No.1575 浦田 学

まず最初に、SAAJ中部支部の田中支部長より、平成21年度の活動報告が行われました。

今年度は全部で5回の例会を実施したこととその概要についての説明がありました。9月に初となる三重県四日市市での例会を開催したと、今回、システム監査人の原点に立ち戻った演習形式の合宿を開催したことの説明がありました。



また、WTCで行われた西日本支部合同研究会についての説明がありました。

次に、平成22年度のSAAJ中部支部の活動方針、活動体制、活動内容についての説明がありました。特に、来年度は西日本支部合同研究会の担当が中部支部となるため、そのための体制作りが必要になることの説明がありました。

また、平成22年度は本部理事改選時期にあたることの説明がありました。田中支部長が支部長と本部理事を継続すること、杉山副支部長が本部理事からは諸事情により退任して副支部長を月例会担当として継続することの説明がありました。

そして、栗山氏を副支部長および本部理事にしたいとの案が提示されました。

栗山氏の副支部長就任については、本総会参加者の拍手をもって、承認がなされました。

続いて、JSAG中部支部の石井副支部長より、JSAG中部支部における今年度の活動報告が行われました。

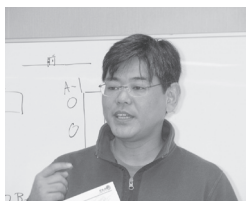
例会には講演形式を取り入れ、支部長、副支部長が率先して講演するようにしたことと、今年度より始まった「ITストラテジスト試験勉強会」を2回にわたって開催したことの説明がありました。

最後に、JSAG中部支部でもSAAJ中部支部とは相互に例会を乗り入れ可能にしているので、SAAJ中部支部からも積極的に参加して欲しいとの話がありました。

2. システム監査セミナー

No.1711 澤田 裕也

近畿支部より講師として岡谷氏をお招きし、システム監査入門セミナーを行ないました。



システム監査の目的や手順といった概要の説明の後、4チームに分かれケーススタディに取り組みました。

ケーススタディは、スーパーマーケットの販売管理システムの運用を中心としたシステム監査を内部監査室長より依頼を受け行なう設定で、具体的には以下の3つの演習に分けて進めていきました。

①「監査チェックリストの作成」

販売管理システムの概要、システム部門によるシステムの運用方法、店舗におけるオペレーション、現状の運用における問題点を提示された資料から読み解き、被監査者にどのようなヒアリングを行なうかチェックリストにまとめる。

②「監査(インタビュー)」

監査対象者であるシステム課長、店舗営業部長に扮した講師を相手に、①で作成したチェックリストにもとづきヒアリングした。基準に従った運用を行なっているか、また問題点の原因が何かを中心に現状を確認する。



③「監査報告書の作成」

インタビューによる検出事項とその改善提言、監査総評をシステム監査報告書としてまとめ、内部監査室長に報告する。

限られた時間の中、より良いシステム監査を行なうため、各チームともに熱い議論が交わされていました。また、内部監査室長



への報告では受講者全員の前で発表する形式で積極的な意見交換が行なわれました。

参加者からは、「短い時間ではあったが、システム監査の流れと、どのようなことを行なっているかを肌で感じることができて良い経験になった」との意見もあり、参加者のシステム監査スキル向上につながる非常に有意義なセミナーでありました。

今後も監査スキルの維持・向上のためにこのようなセミナーを継続していきたいと考えています。

3. 講演

「小売業の販売管理システムのポイント」

講師：(株)富士通中部システムズ 増田 仙蔵氏
No.1403 竹村 徹也

(1)小売業ビジネスモデルの特性

小売業では薄利多売で、大量に売る事による利益確保が求められている特徴があるため、ビジネスモデルにおいても以下の特徴があります。

①規模変動・ニーズ変化対応型

- ・薄利多売
- ・商品点数増加
- ・データ分析

②ローコスト追求型

- ・多岐な商流・物流
- ・主要4品目

③流通システム標準化政策進行中

- ・コード
- ・データ交換

(2)システム構成

販売管理システムは、大きく分けて、店舗情報システムとマーチャンダイジングシステムの中核として密接に連携しています。

(3)もとめられる販売管理システムの特性

これからの小売業の販売管理システムでは以下が重要です。

- ①会計原則を損なわない。取引の網羅性・継続性・信憑性の証明が必要です。
- ②店営業はノンストップ。時間帯運営(分刻み)と成っているため、属人に頼らない合理的な仕組みと、安全性を設計する必要があります。
- ③大量データ処理を行います。商品マスター精度の確保と維持を行える仕組みが大事です。

又日々の気付きの
反映やフロントでの
取引精度確保の仕
組みが大事です。

- ④組織の責任と権限、
特に商品調達と販
売を明確する必要があります。



(4)所感

近畿圏のスーパーA社の販売管理システムを
対象とした「システム監査入門セミナー」受講後
に当講演を連続して聴けたため、高い興味・意
識を維持しながら拝聴できました。

小売業ならではの業界特徴を踏まえ、客単価
等の具体的数字を盛り込んで講演していただき、
小売業の販売管理システム知識を深めることが
出来、感謝しております。

4. 合宿に参加して

No.374 木下 一朗

2008年2月に転勤して、中部支部にも参加し
ている木下です。今回は、初めて中部支部合宿
に参加し中部支部メンバーの秘めたパワーとエ
ネルギーを頂戴しました。

システム監査入門では、事前にシステム監査
経験者が半数以上を占めていたため、岡谷講師
は、監査総評を作成するように課題を追加され
ました。「総評は経営者トップへの監査報告で
あることを意識して表現すること」というポイン
トは実務上配慮すべきであると再認識しました。
また、各チームが作成した総評の具体的な例は
監査実務でも参考になると思います。システム
監査入門セミナーのコンテンツをここまで充実
された近畿支部の方々の苦心工夫に思いを馳せ
感謝いたします。システム監査の普及を目指し、
他の業界をモデルにした入門セミナーコンテ
ンツを追加してはどうか、今回のセミナーを「入門」
から「初級」にバージョンアップしてはどうか、
など提案する方も出てくるほど好評でした。

増田講師の「小売業販売管理システムのポイン
ト」は、小売業界を約40年間SEとして携わった
中で凝縮された内容でした。廃棄ロス削減から
機会損失削減へ向けて小売業界トップ経営者に
発想のシフトが起きているなどの最新事情も興
味深い内容でした。ポイントを知って近所のスー
パーに行ってみるといろいろな発見がある

だろうと実感しました。

懇親会は、近況や自分が興味を持っているこ
となど披露され、さらにさまざまな意見や別の
見方が加わる展開が複数発現しました。



宇宙の誕生と宇宙人の話、素数とリーマン予
想などシステム監査とはかけ離れた話題で盛り
上がりました。酒に酔っているのか議論に酔っ
ているのか判別できない状態で0時を過ぎて散
会しました。システム監査や仕事の頭休めとは
いえ、エネルギーな好奇心と探究心はまさに
システム監査人の資質の発露であろうと感服
しました。

今回の研修を、会議室、宿泊、研修内容含めて、
相当リーズナブルに企画推進してくださったメ
ンバー、講師の方々に感謝し所感と致します。

平成 21 年 12 月理事会議事録

日本システム監査人協会

1.日 時：2009年12月10日(木) 18:30-20:00

2.場 所：当協会事務室

3.出席者：鈴木(信)、竹下、馬場、金子、岩崎、
榎本、大石、鈴木(実)、仲、吉田(近畿支部)、
メールによる委任状(24名)

出席者計：34名／40名中

4. 議題

4.1 審議事項

(1)「公認システム監査人等の認定数決定の件

4.2 報告事項

(1)各担当理事の報告

5. 資料

なし

6. 審議事項

(1)公認システム監査人等の認定数決定の件
会長より平成21年度秋季認定審査結果について下記の通り報告があった。

●公認システム監査人 申込者：15名
認定者：11名
補に認定した者：4名

●システム監査人補 申込者：4名
補認定者：4名

以上により、公認システム監査人認定者：11名、
システム監査人補認定者：8名である。

⇒審議の結果承認された。

7. 報告事項(各担当理事)

7.1 事務局(馬場)

(1)平成22年春季公認システム監査人等の募集
の準備をしている。

当該期から新制度の運用が開始される。

(2)Webによる会員情報管理システムを検討
している。

個人ごとID／パスワードを設定し、Web
から本人が会員情報の一部を照会・変更で
きるよう考えている。

(3)事務室のネットワーク環境の整備を行っ
ている。

(4)2月の総会資料の作成依頼を例年とおりの
各理事に依頼するので対応をお願いします。

7.2 会計(仲／榎本)

(1)平成22年度予算申請日程について

・各研究会/事務局予算は、12月締め、1月4
日までに「申請シート」で提出のこと。

・支部予算は、支部収支報告書と併せて1月8
日必着のこと。

以上、詳細はメールにて案内済み。

7.3 会報(竹下)

次回会報(111号)については、原稿を印刷
会社に送り、電子化に合った編集を実施して
いる。

印刷時の用紙サイズは、普及サイズのA4を
考えている。

会員がWebからダウンロードできる環境を
検討したい。

→事務局で進めているWebによる会員情報
管理システムと連動して進めてゆく。

7.4 近畿支部(吉田)

●西日本支部合同研究会

日時：2009年11月14日(土)13:30

～15日(日)15:30

内容：一日目 見学会 懇親会 宿泊

二日目 研究会

テーマ：「コンプライアンスと

システム監査」

基調講演：「コンプライアンス問題と

システム監査」

大阪成蹊大学

松田 貴典 教授

(近畿支部会員)

発表1 「企業コンプライアンスと

内部告発」

関口 幸一氏

(中部支部会員)

発表2 「コンプライアンスの形骸化に対する

システム監査のあり方」

荒添 美穂氏

(九州支部会員)

フリーディスカッション

場所：コスモスクエア国際交流センター

(研究会、懇親会)

出席者：見学会23名、研究会37名

本部、各支部の皆様のご支援、ご出席を頂
きありがとうございました。

●第116回定例研究会

〈ISACA大阪支部との合同講演会〉(予定)

日時：2009年12月19日(土)15:00～17:00

場所：学校法人常翔学園 大阪センター 301教室

テーマ：「国際財務報告基準(IFRS)が

情報システムに与える影響について」

講師：有限責任監査法人トーマツ

IFRSサービスチーム

シニアマネジャー

公認会計士 CPA

公認情報システム監査人

CISA 公認内部監査人CIA

久保 陽子 氏

●平成21年度第1回サポーター会議(予定)

日時：2009年12月19日(土) 13:00～14:30

場所：学校法人常翔学園 大阪センター

301教室

討議テーマ：

(1)平成22年度の支部役員体制について

(2)平成21年度の振り返りと平成22年度の活動について

●システム監査サービス

近畿支部のメンバーにより、実施中

12月中旬報告会の予定

7.5 教育研修委員会(鈴木(実))

副委員長の辞任により、来年度の教育研修委員の選任、増員をお願いする。

今年の特別認定教育への申込者が昨年に比べて減少したため、普及策を検討したい。

7.6 事例研究会(鈴木(実))

(1)1月開催の第15回システム監査実務セミナー
(1/16～1/31:4日間コース)

申込者数10名

(2)新教材「システム監査入門コース」について
東北支部セミナーで使用したが、好評を得た。今後は各支部の協力を得て、全国展開を図りたい。

教材に関しては「半日コース」と「1日コース」の2種類の教材を作る予定である。

7.7 月例研究会(大石)

月例研究会の今後の予定は次の通り。

◎12月25日(金)

講演者:監査法人トーマツパートナー

白井 正 氏

テーマ:「IFRSの概要と情報システムに
対する影響」

◎2010年1月22日(金)

講演者:会計検査院事務総局官房上席情報処理調査官

土肥 亮一 氏

テーマ:「IT分野の会計検査」

以上で今年度計画は終了となる。

(以下はメール報告)

7.8 CSA利用推進G(力)

次回第8回CSAフォーラムは、2010年1月
25日(月) 18:20～20:20

会場:日立情報システムズ本社ビル(大崎)

発表者:九州支部の福田啓二理事

7.9 Post20周年プロジェクト

(三谷副会長代理 小野報告)

Post20周年プロジェクト(これからの10年
提言対応チーム)では、

12月1日に3つの提言についての意見交換
会を開催した。参加者は一般会員6名を含む
16名。

2時間にわたって、活発・貴重な意見交換を
行った。その結果は、12月中にプロジェクト
を開催し整理する。

7.10 北信越(森)

石川県例会実施

1.日時:2009年12月12日(土)13:30-17:00

2.会場:ITビジネスプラザ武蔵 4F 情報化研修室

3.例会議題

(1)2009年報告と2010年計画案について

(2)西日本支部合同研究会参加報告

「コンプライアンスとシステム監査」

(3)システム監査研究会報告

「IT経営ロードマップ 事例4 カルビー(株)」
森 広志

(4)情報セキュリティ監査研究会報告

「情報セキュリティガバナンス実態調査2008」
宮本 茂明 氏

7.11 北海道支部(大館)

【11月VTR研究会】

日時:11月17日(火)18時30分～

(2時間を予定)

場所:札幌市男女共同参画センター 研修室2(4階)

札幌市北区北8条西3丁目札幌エルプラザ内

研修テーマ:

「金融機関におけるプロジェクト監査への取り組み事例」

講師:三菱東京UFJ銀行

監査部業務監査室 金田雅子 氏

【北海道支部総会】

日時:12月11日(金) 18時30分～

場所:札幌市男女共同参画センター

札幌市北区北8条西3丁目札幌エルプラザ内

7.12 中四国支部(溝下)

－実績－

11月度月例会

日時:2009年11月18日(水)

18:30～20:30(2時間)

内容:「内部統制報告制度における

IT統制の評価・監査を終えて」

場所:中四国マネジメントシステム推進機構 交流室

－予定－

12月度月例会

日時：2009年12月16日(水)

18:30～20:30(2時間)

内容：「システム監査これからの10年」
(フリーディスカッション)

場所：広島市内

7.13 中部支部(田中)

中部支部11月活動報告

(1)開催日時：11月28日(土)13:15

～11月29日(日)13:00

(参加17名)

(2)開催場所：あいち健康プラザ

(3)テーマ：システム監査作業の実践力養成
SAAJ近畿支部殿のシステム監査入門セミナーを活用

・中部支部総会(H20年活動報告、H21年計画案)

・講演：小売業の販売管理システムのポイント
(株富士通中部システムズ)

7.14 東北支部(高橋)

●東北支部報告

◇月例会

(1)日時：11月21日(土) 14:00～17:00

(2)場所：仙台市青葉区一番町1丁目1-41
カメイ仙台中央ビル5F
株式会社富士通東北システムズ
研修会議室

(3)内容

・連絡、報告事項

下記セミナーの報告

東北支部寒河江セミナー

ITCみやぎ・SAAJ東北・JSAG東北
ワークショップ2009・東北支部総会のセミナーテーマ、議案書
について検討・勉強会「クラウドコンピューティングに関
する情報交換」

今後の予定

◇東北支部役員会

日時：12月19日(土) 17:30～

議題：東北支部総会二向けの議案書作成

◇東北支部総会

日時：1月16日(土) 午後

※記念講演を企画中

7.15 九州支部(福田)

●11月度月例会(第227回)

日時：11月21日(土) 13:00～17:00

会場：早良市民センター 視聴覚室

内容：ビデオ視聴 第149回月例研究会
(2009/8/31開催)「内部統制報告制度におけるIT統制
の評価・監査を終えて～IT統制の1
年目の総括と、2年目に向けた経営者、
そして外部監査人に向けての提言～」

・大分合同セミナー開催報告(藤平)

・西日本支部合同研究会参加報告

(開催予定)

●12月度月例会(第228回)九州支部設立20
周年記念総会

日時：12月12日(土) 14:00～17:00

会場：福岡市NPOボランティア交流センター
セミナールーム

内容：総会

議案1.平成21年度九州支部活動報告

2.平成22年度九州支部事業計画

3.平成22年度九州支部役員選任

記念講演

演題「地域金融機関の情報システム、
現下の課題を巡る～プロジェ
クト管理/外部委託/共同化～」

講師 日本銀行金融機構局

企画役 大石正人氏

議事録確認

議長 鈴木 信夫

議事録署名人 馬場 孝悦、金子 長男
以上

平成22年1月理事会議事録

日本システム監査人協会

1.日 時：2010年1月14日(木) 18:30～20:30

2.場 所：当協会事務局

3.出席者：鈴木(信)、小野、力、馬場、金子、岩崎、
榎本、大石、木村、桜井、鈴木(実)、
仲、中山、松枝、吉田(近畿支部)

メールによる委任状(18名)

出席者計：33名／40名中

4. 議題

4.1 審議事項

- (1)平成21年度事業報告案と平成22年事業計画案について
(会計関連は2月理事会)
- (2)その他総会関連について(総会役割分担など)

4.2 報告事項

- (1)各担当理事の報告

5. 資料

- (1)第9期総会資料(全体概要、全体計画の抜粋)
- (2)総会役割分担表
- (3)第9期通常総会のご案内
- (4)平成22年度予算申請書(集約版)

6. 審議事項

- (1)平成21年度事業報告案と平成22年事業計画案について
資料(1)第9期総会資料の平成21年度事業報告案について審議を行った。
⇒審議の結果承認された。
資料(2)第9期総会資料の平成22年度事業計画案について審議を行った。
⇒審議の結果承認された。
なお、字句の修正があったため修正後の総会資料を理事会メールで送付する。会計関係は2月の理事会で審議を行う。
- (2)その他総会関連について
資料(2)総会役割分担表、資料(3)第9期通常総会のご案内について審議し承認された。

7. 報告事項(各担当理事)

7.1 事務局(馬場/金子)

- (1)総会担当者は、12時50分までに会場に集合願います。
- (2)事務室の入退室記録簿を設置しますので、最初入室者、最終退出者は氏名、時刻を記載願います。最終退出者は、記録簿の注釈に基づき消灯、電源OFF等の確認をお願いします。

7.2 会計(仲/榎本)

資料(4)平成22年度予算申請書(集約版)に基づき、予算の集約状況について説明された。

7.3 事例研究会(中山)

事例研究会で開発している新セミナーのパンフレットについて説明された。

新セミナーはシステム監査の普及を目的に、システムの事故や障害を題材に、IT関係者などにシステム監査の役割や必要性を理解してもらうもの。

パンフレットは、2月の総会にて出席者に配布し新セミナーを宣伝する。

パンフレット表題「"新登場"事例に学ぶシステム監査セミナー」

理事会出席者から次の改善要望が出された。

- ・受講対象者のイメージや受講者のメリットなどを明確に表現する。
 - ・セミナーの名称が、システム監査人になるためのセミナーの様に受け取られるので工夫が必要。
 - ・セミナーの種類(団体向け/個人向け、一日コース/半日コース)と受講料を明確記載する。
- これら要望を事例研究会で検討しパンフレットに反映したうえで総会で配布する。

7.4 近畿支部(吉田)

●第116回定例研究会

〈ISACA〉大阪支部との合同講演会>

日時：2009年12月19日(土)15:00～17:00

場所：学校法人常翔学園 大阪センター 301教室

テーマ：「国際財務報告基準(IFRS)が情報システムに与える影響について」

講師：有限責任監査法人トーマツ

IFRSサービスチーム

シニアマネジャー

公認会計士 CPA

公認情報システム監査人 CISA

公認内部監査人 CIA

久保 陽子 氏

出席者：77名

●平成22年度支部総会兼第117回定例研究会(予定)

1 平成22年度 支部総会

日時：2010年1月15日(金) 18:30～19:00

場所：大阪大学中之島センター 2階 講義室1

議題：1) 平成21年度の活動報告と平成22年度の活動計画について

2) 平成22年度の支部役員体制について

3) 支部規約改正について

2 SAAJ近畿支部第117回定例研究会
 日時：2010年1月15日(金) 19:15～20:30
 場所：大阪大学中之島センター 2階 講義室1
 テーマ：「コンプライアンスのシステム監査」
 講師：松田 貴典 氏 当支部会員
 大阪成蹊大学 教授
 大阪市立大学 特任教授

●システム監査サービス

近畿支部のメンバーにより、実施した
 12月18日報告会実施

7.5 システム監査への提言(小野)

「システム監査これからの10年」10の提言
 の1つである「システム監査と情報セキュリティ監査との違い・関係の明確化」についての
 アウトプットを、ホームページで公表する。

7.6 法人部会(小野)

自治体向けの講師派遣によるセキュリティ
 セミナーを継続実施する。

7.7 基準研究会(松枝)

一般向けに「システム監査基準(for オフショ
 ア)」のパブリックコメントを公開中。

今年は、「Webシステムにおける監査のポ
 イント」、「BCMにおける監査のポイント」に
 ついてホームページ上に公開しパブコメを募
 集する計画である。

7.8 月例研究会(大石／メール報告：沼野)

- ・第152回月例研究会「IT分野の会計検査」
 (1月22日)の申込者数は127名
- ・講演者：会計検査院事務総局官房上席情報処理調査官
 土肥 亮一 氏
- ・テーマ：「IT分野の会計検査」

7.9 CSA フォーラム

今年最初の第7回CSA フォーラムを下記の
 通り実施する。

- ・テーマ：地方在住CSAの活動とスキル維持向上策
- ・日時：2010年1月25日(月) 18:00～20:20
- ・場所：品川区大崎1-2-1 日立情報システムズ 本社
- ・発表者 福田 啓二 氏
 株式会社アンウィックス取締役

(以下はメール報告)

7.10 東北支部(高橋)

●東北支部報告

◇東北支部役員会

日時：12月19日(土) 17:30～19:30
 議題：東北支部総会に向けての議案書作成
 (1)支部総会について
 (2)支部総会時の講演について
 (3)協会本部への報告事項について

今後の予定

◇東北支部総会

日時：1月16日(土) 14:00～15:00
 場所：エルソーラ仙台「研修室1」
 仙台市青葉区中央1丁目3-1 アエル28階
 ※総会終了後、BABOKの講演を予定

7.11 北信越支部(森)

〈北信越支部 石川県例会〉

日 時：2009年12月12日(土)13:00～17:00

会 場：石川県金沢市ITビジネスプラザ武蔵
 4F 情報化研修室

出席者：宮本、國谷、白井、角屋、森田、小嶋、
 清水、河村、森

例会議題

(1)2009年事業報告・2010年予定について

森

(2)報告

「西日本支部合同研究会

ーコンプライアンスとシステム監査」

参加報告 宮本、森

(3)システム監査研究会報告

「IT経営ロードマップ」

事例4：カルビー株式会社

森

(4)情報セキュリティ監査研究会報告

「情報セキュリティガバナンス

実態調査2008」について

(経済産業省委託 調査報告書の概要)

宮本

7.12 北海道支部(大舘)

【北海道支部総会】

日時：12月11日(金) 18時30分～

場所：札幌市男女共同参画センター

札幌市北区北8条西3丁目札幌エルプラザ内

【1月VTR研究会】

日時:1月18日(月) 18時30分～(2時間を予定)
 場所:札幌市男女共同参画センター 中研修室A(4階)
 札幌市北区北8条西3丁目札幌エルプラザ内
 研修テーマ:「高度情報化社会を見据えた情報システム・ソフトウェアの信頼性向上に向けた取組み」
 講師:経済産業省 商務情報政策局 情報処理振興課 課長補佐 安田 篤 氏

7.13 中四国支部(溝下)

－実績－

12月度月例会

日時:2009年12月16日(水) 18:30～20:30
 内容:「システム監査これからの10年」
 (フリーディスカッション)

7.14 中部支部(田中)

中部支部1月例会予定

1.日時:2010年1月16日(土) 14:00～17:00
 東桜第1ビル 5-1会議室

2.内容

- (1)2010年度 年間計画について
- (2)2009年度 西日本合同研究会参加報告
- (3)講演:「失敗学入門」 CTI 磯部秀敏 氏

7.15 九州支部(福田)

●12月度月例会(第228回)九州支部設立20周年記念総会

日時:12月12日(土) 14:00～17:00

会場:福岡市NPO ボランティア交流センター
 セミナールーム

内容:総会

- 議案1.平成21年度九州支部活動報告
 2.平成22年度九州支部事業計画
 3.平成22年度九州支部役員選任
 記念講演
 演題「地域金融機関の情報システム、
 現下の課題を巡る～プロジェクト管理/外部委託/共同化～」

講師:日本銀行金融機構局 企画役
 大石 正人 氏

(開催予定)

●1月度月例会(第229回)

日時:1月23日(土) 13:00～17:00

会場:福岡市早良市民センター 第2会議室

内容:ビデオ視聴 第150回月例研究会
 「情報サービス産業の現状と課題」
 平成21年度支部会計報告 等

7.16 会報(竹下)

12月発行の会報より、電子ファイルでダウンロードする方式に変更した。

会員むけ電子メールで、会報の発行を案内し、ダウンロードサイトとパスワードを通知する方式。

これまでのところ、ダウンロード時の混雑や時間がかかるなどの苦情は届いていないが、各支部や理事に意見があれば連絡いただきたい。ひき続き、会報編集および運用の簡素化と標準化を図る。

なお、印刷費および郵送費の削減を前倒し実施した。

議事録確認

議	長	鈴木 信夫
議事録署名人	馬場 孝悦、金子 長男	以上

平成 22 年 2 月理事会議事録

日本システム監査人協会

1.日 時:2010年2月4日(木) 18:30～20:30

2.場 所:当協会事務室

3.出席者:鈴木(信)、馬場、竹下、沼野、岩崎、
 榎本、大石、木村、斉藤、鈴木(実)、成、
 仲、吉田(近畿)、福田(九州)(14人)

メールによる委任状 小野、力、三谷、橘和、桜井、
 関西、中山、高橋、藤野、松枝、原、山田、片岡、
 高橋、森、溝下、金子(17人)

出席者計:31人/40人中

4. 議題

4.1 審議事項

平成21年度予算・実績 及び 平成22年度予算(案)について

4.2 報告事項

各担当理事の報告

5. 資料

- (1)平成21年度予算・実績 及び 平成22年度予算(案)
(2)会員募集について

6. 審議事項

平成21年度予算・実績 及び 平成22年度予算(案)について、審議し、承認された。

7. 報告事項(各担当理事)

7.1 事務局(馬場)

総会参加者についてホームページで集計している。総会資料準備は、100部程度を予定している。

7.2 会計(仲／榎本)

平成21年度予算・実績 及び 平成22年度予算(案)について、説明がなされた。

平成21年度予算・実績の報告及び1月30日の会計監査の報告がなされ承認された。

研究・研修事業の縮小傾向などによって、ここ数年、会計収支が悪化している。そのことに鑑み、平成22年度は、普及・啓発、広報事業費、認定事業費、旅費交通費及び事務局手当て等の圧縮を図り、会計収支悪化に歯どめをかける旨の平成22年度予算(案)が報告され承認された。

また、会計収支改善を図るため会員数増加を狙った会員募集について、提案があり議論がなされた。3月理事会で募集チラシの原案を決める。

7.3 CSA フォーラム(斉藤)

第8回CSA フォーラムを下記の通り実施した。

- ・テーマ：地方在住CSAの活動とスキル維持向上策
- ・日時：2010年1月25日(月) 18:20～20:30
- ・場所：品川区大崎1-2-1

日立情報システムズ 本社

- ・発表者：福田 啓二氏

株式会社アンヴィックス取締役

- ・参加者：約20人

7.4 事例研究会(畠中)

1月16日17日に第15回実務セミナーを開催し17人が参加した。

当研究会で開発した課題解決セミナーのパンフレットが紹介された。

パンフレットは2月の総会にて参加者に配布し当セミナーを宣伝する。また、ホームページからダウンロードできるようにする。

7.5 会報(竹下)

電子化して1ヶ月が経過した。電子化したことで、苦情は来っていない。

メルマガの配信を予定している。総会特集については、紙で配信する。

7.6 月例研究会(沼野)

1月22日の月例会で21年度は終了した。8回開催し、千人弱の参加があった。

7.7 近畿支部(吉田)

課題解決セミナーを予定している。その他は、メール報告のとおり。

7.8 九州支部(福田)

支部長の交代を予定している。その他は、メール報告のとおり。

(以下はメール報告)

7.9 東北支部(高橋)

●東北支部報告

◇第8期東北支部総会

日時：1月16日(土)14:00～15:00

場所：エルソーラ仙台「研修室1」

仙台市青葉区中央1丁目3-1 アエル28階
内容：(1)平成21年度事業報告(月例会報告、収支報告)

(2)議事

平成22年度 活動計画、予算の件、役員改正
東北支部の規約改定について
(37名中参加者14名、委任状11名で総会成立)

◇総会記念セミナー：

日時：1月16日(土) 15:00～17:00

場所：エルソーラ仙台「研修室1」

テーマ：BABOKについて

IIBA日本支部 理事、日本アナリスト協会 会長
安藤 秀樹 氏

●今後の予定

◇東北支部月例会

日時：3月6日(土)14:00～17:00

場所：コラッセふくしま5F 研修室A

7.10 中部支部(田中)

中部支部活動報告(1月例会)

1.日時:2010年1月16日(土) 14:00~17:00

参加者(14名)

2.会場:東桜第1ビル

5階(受付、会議室フォロアー)5-1会議室

3.内容

(1)2010年度 年間計画について

14:00~15:20

・例会スケジュールについて

3月例会 3月13日 名古屋市内

5月例会 5月15日 大垣市内

7月例会 7月10日 浜松市内

9月又は11月例会 未定(合同研究会開催と調整)

・西日本支部合同研究会

9月又は11月開催で各支部と調整

研究テーマなどの案検討

(2)2009年度 西日本合同研究会の報告

15:20~16:10

1日目見学会、2日目研究会の報告

(3)講演:「失敗学入門」 16:10~17:00

CTI 磯部 秀敏 氏

4.次回 3月13日

7.11 近畿支部(吉田)

●平成22年度支部総会兼第117回定例研究会

1 平成22年度 支部総会

日時:2010年1月15日(金) 18:30~19:00

場所:大阪大学中之島センター 2階 講義室1

議題:1)平成21年度の活動報告と

平成22年度の活動計画について

2)平成22年度の支部役員体制について

3)支部規約改正について

※全て異議なく承認された

出席者:28名,メールによる委任状(50名)

2 SAAJ近畿支部第117回定例研究会

日時:2010年1月15日(金)19:15~20:30

場所:大阪大学中之島センター 2階 講義室1

テーマ:「コンプライアンスのシステム監査」

講師:松田 貴典 氏 当支部会員

大阪成蹊大学 教授

大阪市立大学 特任教授

出席者:50名

●第23回システム監査勉強会(予定)

日時:2010年2月20日(土)13:00~17:00

場所:大阪大学中之島センター 2階 講義室1

テーマ1:「情報サービス産業の現状と課題」

講師:株式会社NTTデータ経営研究所

三谷 慶一郎 氏

SAAJ本部 第150回 月例研究会

(2009/11/9)のVTRを視聴し、討議します。

テーマ2:「IFRSの概要と

情報システムに対する影響」

講師:有限責任監査法人トーマツ 白井 正 氏

SAAJ本部第151回月例研究会(2009/12/25)

のVTRを視聴し、討議します。

●コンプライアンスのシステム監査研究会

第1回打ち合わせ

日時:2010年1月27日(水) 19:00~21:00

場所:弁天町市民学習センター第3会議室

出席者:7名

●システム監査セミナー WG 第1回打ち合わせ

日時:2010年1月30日(土)13:00~16:00

場所:学校法人常翔学園大阪センター

出席者:7名

入門セミナー (1日コース)6月12日(土)、

7月10日(土)の2回

実践セミナー (2日コース)9月25日(土)、

26日(日)を仮決め

●システム監査法制化研究会

第1回打ち合わせ(予定)

日時:2010年2月5日(金)19時から

場所:難波市民学習センター第3研修室

●BCP研究会 打ち合わせ 第1回打ち合わせ(予定)

日時:2010年2月17日(水)19時から

場所:阿倍野市民学習センター 第2会議室

7.12 中四国支部(溝下)

中四国支部からの報告

-予定-

2月度月例会

日時:2010年2月17日(水) 18:30~20:30

内容:「金融機関におけるプロジェクト監査への取り組み事例」

場所:中四国マネジメントシステム推進機構 交流室

7.13 九州支部(福田)

●1月度月例会(第229回)

日時:1月23日(土) 13:00~17:00

会場：福岡市早良市民センター 第2会議室
 内容：ビデオ視聴 第150回月例研究会「情報サービス産業の現状と課題」
 平成21年度支部会計報告
 日本セキュリティ監査協会小冊子紹介
 (中溝)

参加：9名

(開催予定)

●2月度(第230回)

日時：2月27日(土)13:00～17:00
 会場：早良市民センター 第3会議室
 内容：ビデオ視聴 第151回月例研究会
 「IFRSの概要と
 情報システムに対する影響」

●3月度(第231回)

日時：3月27日(土) 13:00～17:00
 会場：松蔭プラザ[えさまえ]いきいきひろば(長崎市)

議事録確認

議長 長 鈴木 信夫
 議事録署名人 馬場 孝悦、仲 厚吉
 以上

平成 22 年 3 月理事会議事録

日本システム監査人協会

1.日 時：2010年3月11日(木) 18:30～20:00
 2.場 所：当協会事務室
 3.出席者：鈴木(信)、馬場、竹下、沼野、松枝、
 安部、岩崎、榎本、大石、川端、金子、
 齊藤(茂)、齋藤(由)、桜井、力、仲、
 三輪、吉田(近畿)、田中(中部)(19人)
 メールによる委任状 清水、中山、藤野、山田、
 小野、鈴木(実)、溝下、関西、木村、大館、原、
 高橋、中溝、成、宮本、片岡(16人)
 出席者計：35人／40人中

4. 議題

4.1 審議事項

- (1)会長、副会長の選任について
- (2)理事の担当について

- (3)会計規程の一部改定について
- (4)相談役、顧問の委嘱
- (5)名誉会員の推薦の件

4.2 報告事項

各担当理事の報告

5. 資料

- (1)第9期本部理事担当表(案)
- (2)会計規定(改定案)
- (3)受験者の皆さんへ情報処理技術者試験 合格祈願

6. 審議事項

- (1)会長、副会長の選任について
 鈴木信夫氏から会長への立候補があり、審議の上、承認された。
 会長から資料(1)第9期本部理事担当表(案)の通り、副会長の推薦があり、審議の上、承認された。
- (2)理事の担当について

馬場事務局長から資料(1)第9期本部理事担当表(案)の通り理事担当者の推薦があり、審議の上、承認された。

- (3)会計規程の一部改定について
 会計から資料(2)会計規定(改定案)の提案があり、審議の上、下記の内容で承認された。

①改定案概要

「手当対象AおよびBについては、現行規定の金額を上限として、各担当における委員長・事務局長あるいは主査の承認により変更することができる。」

- ②上記改定案は平成22年4月から適用する。

- ③各手当の変更についての指針等の整理は、会計担当・事務局で上期中(6月末まで)に検討し提案する。

(4)相談役、顧問の委嘱

会長から相談役として橘和氏を、顧問として和貝氏を委嘱する旨提案が出され、審議の上、承認された。

(5)名誉会員の推薦の件

会長から橘和氏を名誉会員とする旨提案が出され、審議の上、承認された。

7. 報告事項(各担当理事)

7.1 事務局(馬場/金子)

- ①理事の名簿を作成するため「登録シート」を理事会メールにアップしますので、同意書に同意の上、記載し、提出してください。
- ②名刺の必要な方は申し出てください。
- ③理事会スケジュールは次の通り。
 - ・理事会は2月、8月を除き、第2木曜日とする。
 - ・2月は第1木曜日とする。8月は開催しない。
- ④Web会員システムについて
対象を理事会メンバーに限定し運用テストを実施するので協力をお願いする。

7.2 会報 (竹下)

- (1)会報について
 - ・会報の電子化を実施しました。
 - ・会報の発行時期、記事の内容について検討しています。
- (2)動画の配信
 - ・会報とは別に新しいコミュニケーションの仕組みとして「ユーストリーム」等のサービスを使った動画配信を検討する。
 - ・本日理事会終了後デモを行います。

7.3 仲理事報告

- ・情報処理技術者試験会場で公認システム監査人の紹介を行うため、会場にてパンフレットを配布する。
パンフレット:「受験者の皆さんへ情報処理技術者試験 合格祈願」
- ・10名の動員を考えている。ご協力をお願いする。

7.4 中部支部 (田中)

中部支部3月例会 (予定)

1.日時:2010年3月13日(土) 14:00~17:00

東桜第1ビル 5階

(受付、会議室フォロアー)5-1会議室

2.内容:

- (1)事務連絡
14:00~14:10
- (2)西日本支部合同研究会について
14:10~14:50
- (3)総会報告
14:50~15:00
- (4)講演:「GISについて(仮称)」
15:10~17:00
ゲスト 和田 様

7.5 CSA 利用推進 (力)

- ・CSA フォーラムのテーマを検討中である。
- ・今年も継続して隔月開催とする。

7.6 事例研究会 (三輪)

- ・「課題解決セミナー」のパンフレットをホームページに掲載した。
セミナーの実施を検討中である。近畿支部で8月に開催するセミナーに合わせて準備を進めている。
- ・次回実務セミナーの予定
第16回システム監査実務セミナーを8/28、29、9/4、5 実施を検討中

7.7 月例研究会 (沼野)

- ・3月5日に第1回企画会議を開催した。
4月から6月の月例研究会について検討中である。

7.8 岩崎理事報告

- ・個人情報有識者会議(NPO法人)に参画している。
新しい情報について提供してゆきます。

7.9 近畿支部 (吉田)

●第23回システム監査勉強会

日時:2010年2月20日(土) 13:00~17:00

場所:大阪大学中之島センター 2階 講義室1

テーマ1:「情報サービス産業の現状と課題」

講師:株式会社NTTデータ経営研究所

三谷 慶一郎 氏

SAAJ本部 第150回 月例研究会

(2009/11/9)のVTRを視聴し、討議しました。

テーマ2:「IFRSの概要と

情報システムに対する影響」

講師:有限責任監査法人トーマツ 白井 正 氏

SAAJ本部 第151回 月例研究会

(2009/12/25)のVTRを視聴し、討議しました。

出席者:46名

●第118回定例研究会 (予定)

日時:2010年3月19日(金) 18:30~20:30

場所:大阪大学中之島センター 2階 講義室1

テーマ:「i社システム監査サービスの実施報告」

講師:小宮 弘信 氏

(i社システム監査サービスチーム 当支部会員)

i社監査室の方(被監査人側)

- コンプライアンスのシステム監査研究会
第2回打ち合わせ
日時：2010年2月15日(月) 18:30～20:30
場所：大阪市立大学文化交流センター大セミナー室
出席者：9名
- コンプライアンスのシステム監査研究会
第3回打ち合わせ(予定)
日時：2010年3月16日(火) 18:30～20:30
場所：大阪市立大学文化交流センター小セミナー室
- システム監査セミナー WG 第2回打ち合わせ
日時：2010年2月26日(金) 9:00～21:00
場所：日本ユニシス㈱関西支社 1531会議室
出席者：8名
課題解決セミナー(半日コース)8月21日(土)
を仮決め
情報処理試験会場でチラシ配布予定
- システム監査セミナー WG 第3回打ち合わせ(予定)
日時：2010年3月23日(土) 18:30～20:30
場所：日本ユニシス㈱関西支社
- システム監査法制化研究会 第1回打ち合わせ
日時：平成22年2月5日(金) 19時から
場所：難波市民学習センター第3研修室
出席者：6名
- システム監査法制化研究会 第2回打ち合わせ(予定)
日時：2010年3月12日(金) 18時半から
場所：弁天町市民学習センター第3会議室
- BCP研究会 打ち合わせ 第1回打ち合わせ
日時：2010年2月17日(水) 19時から
場所：阿倍野市民学習センター第2会議室
出席者：8名
- BCP研究会 打ち合わせ 第2回打ち合わせ(予定)
日時：2010年4月9日(水) 19時から
場所：阿倍野市民学習センター第2会議室

7.10 監査基準研究会(松枝)

- ・BCMにおけるシステム監査、プロジェクトマネジメント監査、Webシステムにおける監査のポイントの各テーマで基準作りを行っている。
- ・BCMにおけるシステム監査について、金融系BCP・PCMの担当者に来てもらってレビューを行った。

(以下はメール報告)

7.11 中四国支部(溝下)

－実績－

2月度月例会

日時：2010年2月17日(水) 18:30～20:30
内容：「金融機関におけるプロジェクト監査への取り組み事例」

場所：中四国マネジメントシステム推進機構 交流室

－予定－

3月度月例会

日時：2010年3月17日(水) 18:30～20:30
内容：「情報サービス産業の現状と課題」
場所：中四国マネジメントシステム推進機構 交流室

7.12 北海道支部(大館)

【2月研究会】

テーマ：「情報処理技術者試験の変更点」

講師：日本システム監査人協会

北海道支部 福西 伸康 氏

日時：2月10日(水) 18:30～

場所：株式会社HBA

【3月VTR研究会】

テーマ：第151回月例研究会

「IFRSの概要と情報システムに対する影響」

講師：有限責任監査法人トーマツ

新潟事務所 白井 正 氏

日時：3月17日(水) 18:30～(2時間を予定)

場所：株式会社HBA

7.13 東北支部(高橋)

【東北支部3月月例会】

日時：3月6日(土) 14:00～17:00

場所：コラッセふくしま 5階 研修室A

内容：

- ・連絡、報告事項
本部総会報告
- ・検討事項
ワークショップの日程について
山形月例会、ワークショップの内容について
- ・勉強会
前期テーマ「クラウド」に関する意見交換
今期テーマの検討
→監査実践セミナーを4～5回に分けて実施

【次回東北支部月例会予定】

日時：4月17日(土) 13:00～17:00

- 場所：エル・ソーラ仙台 研修室2
 内容：
 ・連絡、報告事項
 ・勉強会…監査実践ミニセミナー

7.14 九州支部(中溝)

- ・九州支部2月度月例会

特定非営利活動法人日本システム監査人協会
 (SAAJ) 九州支部
 2010年2月度月例会(第230回) 議事録

■開催概要

- 日時：2010年2月27日(土)13:00～17:00
 会場：早良市民センター 第3会議室
 参加：居倉圭司、小野哲夫、鶴岡 通、
 中溝統明、平山克己、福田啓二、舩津 宏、
 前田弘幸、溝田明美 (9名)

■月例会アジェンダ

- ビデオ視聴
 第151回月例研究会(2009年12月25日開催)
 「IFRSの概要と情報システムに対する影響」
 講師：有限責任監査法人トーマツ 新潟事務所
 白井 正 氏

□報告事項(15:00～16:50)

- (1)出席者近況報告
- (2)3月度月例会(平山)
- (3)小冊子紹介「10分でわかる 持たずに使うクラウドの秘密 読本」(中溝)
- (4)SAAJ セミナー紹介
- (5)近日開催セミナー

□発表事項

- ・第9期通常総会報告(中溝、福田)
- ・「平成21年度公開セミナー(福岡県情報サービス産業協会)」(鶴岡)
- ・「2009年度情報セキュリティ監査セミナー in Oita」報告(中溝)

□次回開催予定

- 3月度(第231回)
 日時：3月27日(土) 13:00～17:00
 会場：松藤プラザ[えきまえ]いきいきひろば(長崎市)
- 4月度(第232回)
 日時：4月24日(土) 13:00～17:00
 会場：早良市民センター 第3会議室

■月例会内容詳細

□ビデオ視聴

- 第151回月例研究会(2009年12月25日開催)
 「IFRSの概要と情報システムに対する影響」
 講師：有限責任監査法人トーマツ 新潟事務所
 白井 正 氏

□報告事項

- (1)参加者近況報告
- (2)3月度月例会(平山)
 - ・3月度月例会は長崎で開催
 - ・「日本ITストラテジスト協会(JISTA: Japan IT Strategist Association)」共催
- (3)小冊子紹介「10分でわかる 持たずに使うクラウドの秘密読本」(中溝)
 - ・業務のコアとノンコア・定型を見極め、自社運用がクラウド化
 - ・クラウドサービス選定の留意点
- (4)SAAJ セミナー紹介
 「事例に学ぶ課題解決セミナー」が新登場
<http://www.saa.or.jp/kenkyu/index.html>
 ・1日コース、半日コース
- (5)近日開催セミナー
 - ・『セキュリティ確保で儲ける』セミナー
http://www.event-info.com/it_fukuoka/
 日時：3月4日(木) 14:00～17:00
 場所：八重洲ビル
 注目：荒添さん講演
 『セキュリティを強化して儲かった企業。その7つのステップ』
 - ・21年度IT経営大賞表彰&事例発表
http://www.kyu-ouentai.jp/IT/kyushu_it-keiiryoku/h21/hyosyo.shtml
 日時：3月1日(月)14:00～17:00
 場所：博多都ホテル

■発表事項

- (1)第9期通常総会報告(中溝、福田)
 - ・九州支部 事業報告／事業計画
 - ・本部 事業報告／事業計画
- 教育研修委員会
 会報
 法人部会
 CSA利用推進
 システム監査事例研究会
 情報セキュリティ監査研究会
 ・平成22年度 特定非営利活動に係わる事

業会計 事業予算

- ・「これからの10年」提言活動
- ・新任役員は8名、西日本支部では北信越・中部

(2)「平成21年度 公開セミナー（福岡県情報サービス産業協会）」（鶴岡）

- ・「人間と共生する次世代知的ロボット」次世代知的ロボットが身近になり、関心が高まる。
 - －知能ロボットは多種分野（産業、極限作業、宇宙、事務所、家庭）に開発されている。福岡地域で実証実験－自動車産業／自動車社会と知能ロボット開発は深く関連している
 - －次世代知的ロボットとの共生社会が研究されている。環境情報構造化
- ・「知的財産権紛争と企業対応」特許関係訴訟は身近で起きづらいが、注目すべき話題である。
 - －特許出願とノウハウ（営業秘密）は競争防止（権利主張）を目的に選択
 - －職務発明規定の整備が、企業において進む

(3)「2009年度情報セキュリティ監査セミナー in Oita」報告（中溝）

- ・企業活動における情報セキュリティ確保の重要性
 - －セキュリティの最適化のステージが進化。部門内最適化→ 組織（会社）最適化→共同体最適化
 - －ガバナンスとマネージメント
- ガバナンスをDMER、マネージメントをPDCAで表す「ガバナンスとしての監査」と「マネージメントとしての監査」の位置付け
- ・ビジネスの信頼性を高める情報セキュリティ監査
 - －委託元の管理がサプライチェーン全体に行き届かないことにより、大きな事件につながっており、その責任・損害は委託元が負うことになる。
 - －情報セキュリティ管理の困難さの要因として、「委託元の課題」/「サプライチェーンの環境」/「法制度」

7.15 北信越支部（宮本）
（北信越支部年度総会）

- 日時：2010年3月13日(土) 13:30～17:00
- 場所：アーバンプレイス富山8階821会議室
- 年度総会
 - ・昨年度行事報告と今年度行事計画について
 - ・昨年度会計報告と今年度会計計画について
- 報告：白井 正 様（IFRS関連テーマ）
- 支部研究会
 - (1)システム監査研究会経過報告
「IT経営ロードマップ」について
 - ・事例研究：カブドットコム証券株式会社 戦略的PMOについて
 - (2)情報セキュリティ監査研究会経過報告
2010年度研究テーマについて意見交換
（医療情報システムの安全管理/クラウドコンピューティングに関するセキュリティ/ガバナンス）

議事録確認

議長 鈴木 信夫
議事録署名人 馬場 孝悦、金子 長男
以上

平成 22 年 4 月理事会議事録

日本システム監査人協会

- 日時：2010年4月8日(木)18:30～20:00
- 場所：当協会事務室
- 出席者 鈴木（信）、馬場、小野、竹下、松枝、岩崎、大石、川端、金子、齋藤（由）、桜井、力、仲、原、三輪、山田（16人）
メールによる委任状 沼野、三谷、安部、榎本、木村、齊藤（茂）、清水、鈴木（実）、成、中山、大館、高橋、吉田（近畿）、片岡、関西、藤野、栗山、田中（中部）、宮本、溝下、中溝（21人）
出席者計：37人／40人中
- 議題
- 報告事項
各担当理事の報告
- 資料
 - (1)ホームページ移行及びWebによる会員情報管理移行スケジュール

6. 報告事項 (各担当理事)

6.1 会長

- ・ 会員増加のためのキャンペーンを考えている。

6.2 事務局 (馬場、金子)

- ① HP 及び Web 会員システムの移行スケジュールを通知。
5月10日に移行の予定。
- ② 前回理事会で決まった会計規定の改定に伴って4月から事務局関連手当の値下げを行った。他の手当の見直しは各担当でお願いしたい。会計業務支援契約は会計担当で見直している。
- ③ 理事名簿を作成するため「登録シート」を理事会メールでお願いしたが、未提出者は至急提出いただきたい。理事名刺作成は理事名簿作成後にまとめて行う。

6.3 会報 (竹下)

- ・ 会報の電子化を実施。会報発行の時期、記事の内容、画像によるリモートセミナーの組合せなどについて検討。
- ・ メルマガ仕様や執筆者について実施要領を次回提案する。

6.4 会員募集 (仲)

- ・ 会員募集用パンフレットを4月18日の情報処理技術者試験会場で配布する。協力者に手渡し又はゆうパックでお渡しするのでご協力をお願いする。

6.5 個人情報保護 (斎藤 (由))

- ・ 4月14日に、第1回研究会を行う。

6.6 CSA 利用推進 (力)

- ・ 本日、CSA 利用推進担当理事の打合せ (2010年度初回)。
- ・ 4月26日にフォーラムを開催 (テーマは情報セキュリティ)。

6.7 基準研究会 (松枝、力、山田)

- ・ 新メンバーが加入し約12人。再度、テーマと分担を決める。
- ・ 国際標準化の動向があり対応に取り組む。
- ・ オフショア開発の基準は1.0版でリリースを考えている。

6.8 事例研究会 (三輪)

- ・ 「課題解決セミナー」は近畿支部で8月に開催するセミナー参加者募集を進めている。
- ・ 次回実務セミナーの予定
第16回システム監査実務セミナー
8/28-29、9/4-5実施を検討中。

6.9 月例研究会 (沼野 (メール)、原)

月例研究会予定:

〈4月〉

4月27日(火)

テーマ: 「東証新売買システム (arrowhead) の開発経緯について～上流工程の取り組みとその効果～」

講演者: 株式会社東京証券取引所常務取締役兼CIO

鈴木 義伯 氏

〈5月〉

5月11日(火)

テーマ: 「ソフトウェア資産管理 (SAM (Software Asset Management)) の概要と今後の動向、及びSAMにおける監査の実際」

講演者: 株式会社クロスビート 代表ソリューションデザイナー
財団法人日本情報処理開発協会

「ソフトウェア資産管理評価検討委員会」委員長

篠田 仁太郎 氏

〈6月〉

6月28日(月)

テーマ: 「企業IT動向調査2010」の結果 (仮題)

講演者: 社団法人日本システム・ユーザー協会

常務理事 原田 俊彦 氏

7月以降は現在交渉中です。

6.10 法人部会 (小野)

自治体向けセミナーDMを関東地区の市や全国都道府県に送る。

7. 支部報告 (メール報告)

7.1 北海道支部 (大館)

【3月VTR研究会】

テーマ: 第151回月例研究会

「IFRSの概要と情報システムに対する影響」

講師: 有限責任監査法人トーマツ新潟事務所

白井 正 氏

日 時: 3月17日(水) 18:30 ~

場 所：株式会社HBA

7.2 東北支部(高橋)

今月は特に活動はありません。

【次回東北支部月例会予定】

日時：4月17日(土) 13:00～17:00

場所：エル・ソーラ仙台 研修室2

内容：・連絡、報告事項

・勉強会……監査実践ミニセミナー

7.3 中部支部(栗山、田中)

(3月例会)

日時：平成22年3月13日(土) 14:00～17:00

会場：東桜第1ビル 5階

(受付、会議室フォロアー)5-1会議室

〒461-0005 愛知県名古屋市中区東桜1-3-10

出席者：11名+ゲスト1名

例会内容：

(1)SAAJ西日本支部研究会について、次の概要で計画中

テーマ：「社会システムの品質確保に向けて」(仮)

日程：平成22年11月6日(土) 研究会

平成22年11月7日(日) 施設見学

研究会開催場所：名古屋駅周辺

(2)SAAJ総会報告

2月19日開催の「第9期総会」について総会出席者から報告があった。

(3)講演

「地図情報システムとセキュリティの実践」

株式会社CHAPTER11 企画部 和田 靖 様

地図情報(住宅地図)を利用した営業支援システム運用と内部統制、個人情報保護の実践と地図情報システムへの期待、新しい地理空間ビジネスの可能性について講演後、意見交換。

【次回開催予定】

2010年5月15日(土)大垣 14:00～

7.4 北信越支部(宮本)

《H22年度北信越支部年度総会》

1.日時：2010年3月13日(土) 13:30～17:00

2.場所：アーバンプレイス富山8階821会議室(JR富山駅北口)

[総会出席者]13名

3.年度総会

・昨年度行事報告と今年度行事計画について

・昨年度会計報告と今年度会計計画について

4.報告

「IFRSの概要と情報システムに対する影響(その2)」 白井 正 氏

5.支部研究会

(1)システム監査研究会経過報告

「IT経営ロードマップ」について

・事例研究：カブドットコム証券株式会社
戦略的・プログラム・マネジメント・オフィスSPMOについて 森 広志 氏

(2)情報セキュリティ監査研究会経過報告

2010年度研究テーマについて意見交換
(医療情報システムの安全管理/クラウドコンピューティングに関するセキュリティ/ガバナンス)

・「クラウドコンピューティングとは何か」

宮本 茂明

《次回北信越支部例会予定》

・福井県例会

日時：2010年6月12日(土) 13:00～17:00

7.5 近畿支部(吉田)

●第118回定例研究会

日時：2010年3月19日(金)18:30～20:30

場所：大阪大学中之島センター 2階 講義室1

テーマ：「i社システム監査サービスの実施報告」

講師：小宮 弘信 氏

(i社システム監査サービスチーム 当支部会員)

i社監査室の方(被監査人側)

出席者：55名、

●第24回システム監査勉強会(予定)

日時：2010年4月17日(土)13:00～17:00

場所：大阪大学中之島センター 2階 講義室1

テーマ1：「クラウドコンピューティングのセキュリティ」

講師：工学博士 佐々木 良一 氏

第9期通常総会の特別講演(2009/2/19)のVTRを視聴し討議。

テーマ2：「ビジネス・プロセス・マネジメント(BPM)入門」

講師：日本BPM協会理事事務局長

横川 省三 氏

SAAJ本部第144回月例研究会(2010/1/23)のVTRを視聴し討議。

●第1回支部役員会(予定)

日時：2010年4月28日(水) 18:30～20:30

場所：未定

●コンプライアンスのシステム監査研究会
第3回打ち合わせ

日時：2010年3月16日(火) 18:30～20:30

場所：大阪市立大学文化交流センター 小セミナー室

●コンプライアンスのシステム監査研究会
第4回打ち合わせ(予定)

日時：2010年4月8日(木) 18:30～20:30

場所：大阪市立大学文化交流センター 小セミナー室

●システム監査セミナー WG 第3回打ち合わせ

日時：2010年3月23日(土) 18:30～20:30

場所：日本ユニシス(株)関西支社

情報処理試験会場でチラシ配布予定

●システム監査セミナー WG 第4回打ち合わせ(予定)

日時：2010年4月14日(木) 19:00～21:00

場所：日本ユニシス(株)関西支社

●システム監査法制化研究会 第2回打ち合わせ

日時：2010年3月12日(金) 18:30～

場所：弁天町市民学習センター 第3会議室

●システム監査法制化研究会 第3回打ち合わせ(予定)

日時：2010年4月16日(金) 19:00～

●BCP研究会 打ち合わせ 第2回打ち合わせ(予定)

日時：2010年4月9日(木) 19時から

場所：阿倍野市民学習センター 第2会議室

7.6 中四国支部(溝下)

－実績－

3月度月例会

日時：2010年3月17日(水) 18:30～20:30

内容：「情報サービス産業の現状と課題」

ビデオ視聴及び情報交換

場所：中四国マネジメントシステム推進機構 交流室

－予定－

4月度月例会

日時：2010年4月21日(水) 18:30～20:30

内容：「IFRSの概要と情報システムに対する影響」

ビデオ視聴及び情報交換

場所：中四国マネジメントシステム推進機構 交流室

7.7 九州支部(中溝)

◇報告

●3月度(第231回)

日時：3月27日(土) 13:00-17:00

会場：松藤プラザ[えきまえ]いきいきひろば(長崎市)

テーマ：取得した資格をどう活かすか？

内容：

・挨拶 安藤 秀樹(JISTA会長、SAAJ会員)

・自己紹介 参加者全員

・「取った資格をどう活かす？」

～システムエンジニア資格取得のすゝめ～

大熊 伸幸(JISTA九州支部長)

・「資格取得とスキルアップ」

～システム監査技術者編～

福田 啓二(SAAJ九州支部)

・「インターネットバンキングの現状」

河崎 幸徳(SAAJ九州支部)

共催：システム監査学会

日本ITストラテジスト協会

(JISTA: Japan IT Strategist Association)

参加：13名(支部10名、ゲスト1名、他2名)

(開催予定)

●4月度(第232回)

日時：4月24日(土) 13:00～17:00

会場：早良市民センター 第3会議室

内容：ビデオ視聴 第9期通常総会 特別講演

「クラウドコンピューティングのセキュリティ」

●5月度(第233回)

日時：5月29日(土) 13:00～17:00

会場：早良市民センター 第3会議室

議事録確認

議長 鈴木 信夫

議事録署名人 馬場 孝悦、仲 厚吉
以上



第152回月例研究会参加報告**報告者 No.1653 細野 浩一郎**

日時：2010年1月22日(金)18:30～20:30

場所：御茶ノ水 総評会館

講師：会計検査院 事務総長官房

上席情報処理調査官 土肥 亮一 氏

演題：「IT分野の会計検査」

■講演内容

講師から、冒頭、ITに関わる自己紹介がなされた後、IT分野の会計検査について、以下のとおり講演が行われた。

1. 会計検査院の紹介

どの国にも会計検査院がある。会計検査院の一般名称は、最高会計検査機関（Supreme Audit Institution：SAI）であるが、各国での名称は区々である。日本では、「会計検査院」と呼ばれている（「会計監査院」ではない）が、中国では「審計署」、韓国では「監査院」、台湾では「監察院」と呼ばれている。また、米国では Government Accountability Office（GAO）、英国では National Accounting Office（NAO）、タイでは Office of the Auditor General、インドでは Office of the Comptroller and Auditor General と呼ばれている。

会計検査院の歴史を窺うと、会計検査院の存在が求められる背景としては、主権者が、「財布を預ける」ときに、収支の妥当性を確認する必要があることにある。すなわち、こうした要請に応えるために、「財布を預かった」財務大臣から話を聞く必要があり、これが Audit の語源である。日本における会計検査院の沿革を辿ると、江戸時代の「勘定吟味役」まで遡ることができるが、明治時代に入って、1869年に「監督司」が置かれ、その後、「検査寮」、「検査局」へと変遷した。1880年には、太政官に直属するかたちで「会計検査院」が設立された。1889年には、大日本帝国憲法の制定を受けて、天皇に直属する「会計検査院」と位置付けられ、戦後、1947年には、日本国憲法の施行に伴い、現在の「会計検査院」の姿となった。本年2010年は、会計検査院設立130周年を迎えることになる。

現在の会計検査院の設立根拠は、憲法第90条で、同条では、「国の収入支出の決算は、すべ

て毎年会計検査院がこれを検査し、内閣は、次の年度に、その検査報告とともに、これを国会に提出しなければならない。」と定められている。また、会計検査院法第1条では、「会計検査院は内閣に対し独立の地位を有する。」と定められている。国の機構は、立法、行政、司法から構成されており、会計検査院は、行政を構成するものとして位置付けられているが、上述のとおり、内閣からは独立した立場にある。

会計検査院の組織をみると、検査官会議と事務総局から構成されている。検査官会議は、最高意思決定機関である。検査官会議は、衆参両議院の同意を経て内閣が任命する3人の検査官から構成される。会計検査院長は、検査官が互選した者について、内閣から任命されることとされており、検査官会議の議長を務める。一方、事務総局は、検査執行機関であり、事務総長以下約1,300人から構成されている。事務総局は、検査官会議の指揮監督の下に、検査等の事務を行う。

事務総局の組織は、事務総長、事務総局次長の下に、事務総長官房および第1局、第2局、第3局、第4局、第5局の5局が置かれている。

なお、会計検査院には、ボトムアップの伝統があり、事務総長官房および5局に置かれている調査官が重要な役割を担っている。調査官は、①検査活動の企画立案、②書類の分析と現場確認、③問題点の整理と改善策の作成、④検査対象機関トップへの質問文書作成、⑤報告書案の調整と内部説明などの仕事を行っている。

検査は、書面検査と実地検査から構成される。書面検査では、受け取った証拠書類は2008年度実績で5,288万枚もの膨大な量に及んでいる。一方、実地検査では、受検庁のオフィスに赴いて検査を行うものであるが、年間に数十日から百日は、現場で現場の人の話を聞くこととしている。検査の内容に応じ、航空管制施設、トンネル工事現場、砂防ダム現場、海上自衛隊現場などにも赴いている。現場主義が会計検査院の伝統である。

検査の視点は、①正確性（財務の状況を正確に表現しているか）、②合規制（会計経理が適正に処理されているか）、③経済性（より少ない費用で実施できるのではないか）、④効率性（同じ費用で、より大きな効果が得られないか）、⑤有効性（所期の目的を達しているか）の5点である。

決算検査報告は、内閣に報告されることになっており、翌年度の秋頃に、会計検査院長から内閣総理大臣に手交される。

2.IT 検査の実情

会計検査院におけるIT検査の実情をみると、国におけるIT予算のウエイトは公共事業予算の18%程度を占めているが、近年の推移をみると、2002年に2兆円弱のピークを付けた後は、減少傾向にある。これは、2003年度以降、郵政事業庁が郵政公社に移行したことや国立大学が法人化したことの影響が出ているほか、森内閣の下で2001年に策定されたe-JAPAN戦略に基づき、ITといえは予算が付いた時代において、様々なものがIT予算という位置付けで計上されていたのが、最近では、様々な案件がITに関連する中で、IT予算という位置付けでなく予算計上されるものが多くなってきたことが反映していると考えられる。こうした事情を勘案すれば、ITの重要性は低下しておらず、実質的には、むしろ増しているものと考えられる。

会計検査院の職員のバックグラウンドをみると、法律、行政、経済、商学を学んだ者が多い。次に、土木、建築、電気・電子の学科卒業者等が多いが、理科系専攻者は、全体の17.8%（2008年度）に過ぎない。特に、情報工学専攻者に至っては、2名のみで全体の0.16%にとどまる。しかし、そのこと自体は問題ではない。IT検査であっても、物品、工事、行政手続等を対象とする他の分野と同様の検査手法が使えることを内部教育で伝えている。実際、工事検査も多くは文科系出身者が担っている。

その一方、デジタル・デバイドも存在する。ITやIT用語への抵抗感があって、ITを経営的感覚でみることができず、またこれまでの分野で十分仕事があるという認識から、IT分野の検査が手薄になったり、IT検査を指揮し、支援する人材が不足しているのも事実である。

IT検査の評価としては、①国のIT調達が始まって51年になるが、その割にIT調達の管理が不十分であると考えられること、②IT検査が始まって41年になるが、その割に、会計検査院の取組が不十分であると考えられること、が指摘できる。ITは、第2の公共事業とも言われており、不十分なコントロールの下で、多額の国費が投じられているような事例も見受けられる。

IT検査を開始した当初の事例としては、①在庫が十分にあるのに磁気テープを購入したこと、②コンピュータを長期間使用するときは、レンタル契約を継続するのではなく、購入すべきであること、などの事例が指摘されている。これに対し、最近の事例としては、①セキュリティ対策が不十分であること、②基本設計のレビューが不十分であったことから、誤った設計を修正するために追加的な費用を支払ったこと、③電子申請等関係システムの利用が低調であること、などとなっている。

3.システム監査の活用

会計検査院におけるIT検査では、通常のシステム監査の手法を活用することは少ない。これは、①「監査」ではなく「検査」という意識であること、②トップの意向は「政策」という形で公表されているので、トップインタビューのような手続が行われていないこと、などによるものである。

ただ、前述のように、会計検査院の検査において、IT検査の重要性が増している中で、システム監査の考え方を参考にすることは有益であると考えられる。すなわち、①組織の目的、戦略とIT活用の整合性、②「信頼性」、「安全性」、「効率性」、③「発生原因」の分析、などについて、システム監査の考え方を活用していくことが考えられる。

また、システム管理基準を応用して、①全体最適のコンセプトが存在するか、②情報化投資計画は政策と整合しているか、などについて点検することが可能である。

さらに、2009年に公認システム監査人2名を任期付職員（調査官）として採用したが、こうした専門家の視点による検査の企画・立案を行い、府省の垣根を超えて広い視野でIT調達に関する問題点を探ることは、有益であると考えられる。

4.IT人材の育成

政府においては、IT人材の育成が重要な課題である。求められる人材は次のとおりである。

①CIO

多様な資質を持ち、CEOと同レベルの判断と実行ができる人材

②PMO部門、PJMO部門、システム部門

現場重視で将来を展望でき、業者と内部組織

とのバランスを取れる人材

③ユーザ部門

要求部門、利用部門として、求めていることは実現しないという現実を自覚している人材
会計検査院においても、次のような教育を行っている。

- (1) IT 検査を進めるための人材 (IT 検査のコンサルタント、IT 検査技術の指導者、国際協力 (技術協力) 実施担当者) の育成。
- (2) 集合研修、IT 検査教育の企画・実施・フォローアップ、外部専門家との意見交換、現場見学、国際協力に関する貢献などの方法・手段の採用。

5. システム監査人への期待

政府の IT 調達における発注者側の問題として、次のような点が指摘できる。

①統制能力の欠如

CIO (各府省官房長クラス) がトップダウンで決めるべきことを決めておらず、また、府省の IT 施策の状況を把握していない。

②発注能力の欠如

IT 発注現場において、IT 部門経験者がおらず、IT 発注教育も存在しないことから、IT プロジェクトについての認識が乏しい。

こうした中で、システム監査人の皆様には、公的機関の IT ガバナンスの確立のための役割を演じていただきたい。

■所感

本講演では、講師から、会計検査院における検査の概要、そうした中における IT 検査の現状と課題について、わかりやすい解説を提供していただいた。

日本においては、高齢化、人口減少が進む中で、経済の持続的成長を確保することが重要な課題である。そうした中で、国や地方などの公的部門に期待される役割は大きい。しかしながら、公的部門の財政事情をみると、2010年度の国・地方を合わせた長期債務残高は、862兆円、対 GDP 比 181% に達する政府見通しとなっており、他の先進諸国と比べても極めて厳しい状況にあり、また、財政支出の中身についても、国民のニーズに合致しない非効率な支出がなされているとの指摘が多く見受けられる。

こうした状況の下、公的部門の支出について

は、経済性、効率性、有効性の確保が従来にも増して求められるものと考えられる。また、その実現のためには、IT の適切な活用が重要であることは言うまでもないところである。

こうした認識に立つと、会計検査院における検査は、公的部門の適切なガバナンスを確保し、日本経済の持続的な成長と財政の健全性の確保に貢献する観点から極めて重要である。そのためには、会計検査院の検査について、その主眼を正確性、合規性の観点から、経済性、効率性、有効性の観点に一段とシフトしていくことが望ましいと考えられる。また、そうした公的部門の適切なガバナンス確保のために IT の活用が重要であることに鑑みれば、会計検査院の IT 検査体制をより強化していくことが重要である。

こうしたことを踏まえると、システム監査人としても、上述のような問題意識を持ちつつ、政府の IT ガバナンスの向上に貢献できるよう、日々研鑽を積むことが重要であると改めて認識させられた。



事務局より連絡事項

1. Web会員システムの導入について
2. 会員の住所、所属の変更のお願い
3. 電子化した会報の送付

1. Web会員システムの導入について

5月の連休を利用して、Saajサイトを運用しているサーバを移転します。さらに、会員の住所、勤務先、所属などの情報更新をタイムリーに行うため、「Web会員システム」を導入します。

準備が整いましたら、会員あてに、「Web会員システム」へのアクセス用URLを通知しますので、以下の手順で登録してください。

- (1)このような通知メールが届きますので、案内に沿って手続きしてください。

Web会員システムのURLです。

ID/パスワードが届いた後に、アクセスしてください。

<https://www.saaj.or.jp/kaiin/index.cgi>

- (2)ID/パスワードの送付

このメールに続き、会員個別にIDと仮パスワードを送ります。

- (3)ログオンしますとパスワード変更画面が出てきますので

自分の好きなパスワード(8桁の英数字)に変更してください。

今後このパスワードが正式なパスワードとなります。

- (4)操作手順書の入手

会員サイトを開いてください。

「お知らせ」に操作手順書がありますのでダウンロードしてください。

- (5)会員情報の確認と修正

操作手順書に基づき、自分の会員情報を変更願います。

まだ、メーリングリストとは連動しておりません。

更新しますと、Web会員システム管理者(金子)の更新履歴に登録されます。

2. 会員の住所、所属の変更のお願い

この春、住所、勤務先や所属に変更のある会員は、上記の「Web会員システム」を利用して、変更のあった項目を修正してください。

以降、住所、勤務先や所属、メールアドレスなどの連絡先に変更が発生した会員は、連絡に支障のないタイミングで、速やかに変更登録をお願いいたします。

3. 電子化した会報の送付

会報発行の連絡、および印刷した会報誌の送付先は、上記「Web会員システム」に登録された電子メールアドレス、および連絡用住所に送付します。

なお、会報の発行は、原則として、電子化した会報(PDF版)で提供します。電子化に伴い、発行済の電子版会報も閲覧できます。

印刷した会報(冊子版)は、年1回、総会後に配布します。今回は、「Web会員システム」の導入に伴い、登録された住所に送付します。

WEB 会員システムの URL は

<https://www.saaj.or.jp/kaiin/index.cgi>

WEB 会員システム専用のメール問合せ先は

toiawase-w@saaj.or.jp

(編集後記)

会報の電子化、月次発行の準備、「Web会員システム」の導入など、会員向けサービスの向上に向けた取り組みが続いています。システム監査の仕事を通じて、顧客向けの活動に注力していたノウハウは、会員向けのサービス向上にも応用できると思います。さらに、動画を活用したシステム監査を紹介する準備を進めています。会員やシステム監査人以外に、システム監査のに関心を持つ方、つまりセキュリティ監査や内部監査を担当しておられる方や新しく監査業務を担当することになった方々、さらには情報処理技術者試験の受験者にも、情報発信していきたいと考えています。(竹下)

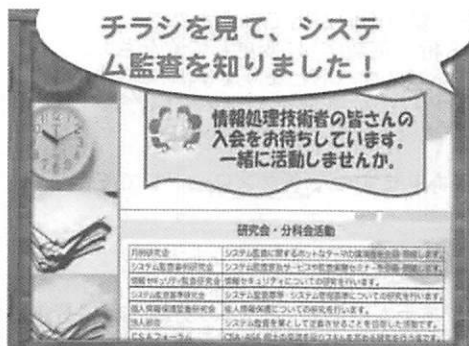
(追 伸)

1. 会報の電子化への切り替えに伴い、本誌と同様の電子ファイルを閲覧いただけます。

会員向けの公開は、会員サイト「Web会員システム」への登録手続きが終了してから、順次、公開をスタートします。

2. 「会員募集、活動紹介」のために、動画を公開しております。

(Youtube の画像は、次の URL で閲覧できます。http://bit.ly/9OcRt2)



発行所 特定非営利活動法人 日本システム監査人協会

発行人 鈴木 信夫

事務所 〒103-0025

東京都中央区日本橋茅場町2-8-8

共同ビル(市場通り)6階

TEL. 03(3666)6341

FAX. 03(3666)6342

事務局メール saajjkl@titan.ocn.ne.jp

ホームページ http://www.saa.or.jp/

会報担当委員

竹下 和孝

仲 厚吉

桜井由美子

成 楽秀

片岡 学

山田 隆

安部 晃生

木村 陽一

藤野 明夫

山田 正寛

※会員のみなさまからの投稿(連載、随筆等何でもOK)を募集します。記名記事は薄謝進呈します。書籍紹介欄もありますので、執筆された方はお知らせ下さい。

会報担当メール saaj-kaihoh@yahoogroup.jp